

太宰管内志

筑後之二

御原郡 生葉郡
竹野郡 山本郡

二九六三番

和書門			
二九六〇一	二〇二	八二	八
號	函	冊	架
類			

内閣文庫			
二九六〇一	八二	七	七
號	冊	架	架
類			
和書			

内閣文庫	
番號	和 29601
冊數	82 (56)
函號	176 44



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



Blank page with a faint blue grid pattern, likely a ledger or account book page.

Blank, aged, and wrinkled page, likely an endpaper or flyleaf.

太宰管内志

筑後國二卷

御原郡

筑前人伊藤常足編録

明治十一年

延喜式云筑後國御原郡あり。倭名抄云筑後國御原三波良
とあり。名義いさゞ詳ならず。筑後志云里老語傳云御原郡

此三野原あり。故三原と云。云云。覺來云。説云。御原
て。姓氏録云。皇別三原朝臣天智天皇皇子一品新田部之
後也。すい未定。雜姓云。京御原真人敏達孫大倭王之後也。
あり。多と由あり。事云。ハあり。ぬ。倭名抄云。房國朝原郡
御原美波良と云あり。又淡路。さて肥前風土記。基。肆。郡。姫。子。
三原郡と云あり。

筑前國宗像郡人珂是古云云。即拳幡順風放遣時其幡飛往
墮於御原郡之社。社字ハ地字を誤り。と。聞ゆ。さて旧事本
紀云。物部阿遲古連公水間君等。の。祖。あり。

河邊古ハハハの珂是古事と聞ゆ。珂是古也。下文ハ河是古
とあり。るハ委々ハ筑前志宗像郡件。又肥前志基肆郡雄社
御件。子云。東鑑三卷。前大納言並室家之領者戴平氏
を考ふべし。

没官領注文自公家被下云云池。大納言沙汰走丹庄。内云云

香推社。筑前安富領。三原庄。筑後球摩白間庄。肥後右庄園拾七箇

所没官領注文白於院所給預也。然而如元為彼家沙汰為有

知行勤狀如件。壽永三年四月五日。三原系因略。其先者大

藏朝臣春種。五男大藏。也。云云右金吾大藏朝臣種勝。筑後

志。種勝。永正年中の人とあり。さて原田系因。二十九代原
田次郎。越前守種勝と有て。其孫種宗。筑後。至て三原家色

つ。由見種勝子親種。親種子三原左衛門大夫重種。其後裔
元あり。

三原知泉入道紹心。天正十四年於筑前國岩屋戰死。筑後志
三原

郡本御城ハ。本御村ニあり。重種累代の筑後軍記畧。筑前
居城あり。縦九五間。横九四間とあり。

國高祖城主大藏。恭種。二男某。始任當國御原郡高橋領。近辺

依之以高橋為号。姓氏録。高橋朝臣あり。又倭名抄。三河
遠江。下總。陸奥。丹後。但馬。多岐の國々。高

橋。と云。御名見元あり。又東鑑。高橋刑部入道。多岐あり。
又古本。九州軍記。五卷。光種。初ハ名字。地。り。ハ。筑後國高

橋。城。子。居。多。り。し。云。云。と。あ。る。と。を。思。へ。て。中。比。上。方。よ
こ。此。國。子。来。り。て。傳。り。し。人。の。如。く。ら。れ。と。も。彼。軍。記。高

橋。氏。ハ。漢。高。祖。の。後。日。て。云。云。と。も。あ。れ。を。原。田。系。因。の。説。の
如。く。大。藏。姓。と。す。こ。と。ハ。論。と。し。軍。記。略。説。原。田。系。因。と。す。れ

云云。至建武年中。足利將軍尊氏御。引率大將。自筑紫攻上

給之時。仁木義長。一色入道。高橋光種。号之筑紫。三檢斷。帶陣

于筑紫。以令押菊池。給。其後義長上洛。一色高橋。為兩檢斷。光

種。依。為。名字之地。居高橋城。子孫相續。保此城。筑後志。下高
橋。城。并。一。城。縦

五十三間、横九間、竇二、城縦四十三間、横二十間、當豊後國
上高橋城、縦四十五間、横二十間、とあり

大友親也之時、九國士多成大友、幕下依之、而檢新、漸失職威、

其後一色家為高橋一家、遂從大友、天文初、高橋參河守長種、

有政殺當國高良山僧、其怨靈夜々來、遮長種、眼無幾、裡長種

病死而無嗣子、是ハ古本九州軍記五卷の説有り、さて西國

と云山伏と不和、事出来て、合戦及び遂に是を殺せ、妙印

怨靈と成て武種を取殺し、高橋家所とあり、筑後地鑑中

とあり、武重ハ此武種の弟と云々、高橋家臣等以此旨

告大友家、且乞養君、大友義鑑以其一族一万田、龙京大夫親

敦二男右馬助、令継高橋家系、号之高橋三河守鑑種、其後肥

後国住人小原鑑元、企逆心、稍菴于南園、大友遣佐伯田原、而

將以一万余騎攻之、高橋鑑種自搦手、山攻入、采取本丸、高橋

内尾藤尾張守討取、大将鑑元、依此勳、切鑑種被賜筑前國御

郡、移于宝満城、西國太平記應永戰、覽記下卷、豊前國伊田

川合戦、件、二番御原美作守、筑後地鑑上、尾、御原郡松崎

寛文八年戊申六月廿四日、頼利公薨去、同年八月廿一日、頼

元公襲封二十万石、同日、同氏豫州大守分封一万石、其采地

邑數凡十九、館所号松崎、豊範公と云ハ、有馬中務

利の弟なり、武鑑、伊豫守豊範、實小出、修理、大天吉重の次

男とあり、貞享元年改易あり、さて前太平記九卷、天慶の

比子筑紫、下、見、伊豫、緑、純、友、其弟、純、素、と、松崎の、遊

女千代を、争ふ、こと、見、え、あり、是ハ、昔、の、事、を、心、得、以、人、の

偽作、を、説、く、れ、不、論、の、り、き、り、日、あ、り、次、郡、大、様、ハ、傳

さて、竹野の、郡、ハ、ち、り、松崎村あり、

名抄九卷尔御原郡長柄日方坂丹川口已上四御なり寛知集云御
原郡三十五村津古井上上岩田大保乙隈千俣吹上横隈力
武三澤西島大坂丹小坂丹平田西福堂東福堂小島上高橋
下高橋今村鷲不高樋稻敷山隈甲奈本御用丸矢次古江小
跡大崎稻吉小郡寺福堂長松筑後志六卷云福童原異本太
平記尔曰菊池肥後守武光五千余騎延文四年七月肥後を
立て云云高良山水納山に陣也七月十九日福堂原に合戦
ありあり今按ずる尔御原郡東福堂西福童兩邑の地ろる
べし筑後地鑑中卷云御原郡三拾五ヶ村山口高貳万五千
八拾七石筑後志云御原郡四十村貳万五千石余なりあり

土地の廣狭方位四境等の事ハレ考へに地鑑上卷云御原郡馬洗
川其所居民曰仇々木高綱後未移封于此所而洗其名馬洗
鮮干此所又指一古原云生食死而埋于此云云曰卷云御原
郡力武村此邑民使童男倣奇男得物於其見奇舞者次資己
産即是京師四條河原東武祿宜町大坂道頓堀所為之歌伎
云云とありさて或人云御原郡之社とあるハ御原郡大崎
村なり大祭ありて近國よりも詣りての多き社なり又水久
苗禾城主より警固人を出して群集の人を守らしめり
肥前風土記文云織女神と見元多水むりく由ありと
いへばなるふく考ふべし大崎村にあり岩船
神社の末社なり筑後志三卷云灵鷲寺御原郡松崎町にあり
今ハ日殿といふなり
又瑞松山と号す乾元元年西牟田弥次郎家綱三猫郡西牟
田村に創立し云云西牟田氏蒲池氏立花氏谷寺田を寄附
先延宝八年米封本知の内一万石を以て先君瓊林公養息

有馬伊豫守豊範主と分封ありて、堡を松崎村に營む時、寺堂を茲に移して、寺産四石二斗を寄附し、禪徒是を守、同巻爾、長福寺御原郡大坂井にあり、與隆山と号む、僧行基の岡墓よりて大友宗麟の支族戸次氏の香華院なり、境内ル戸次が塚墳あり、經二間むつり古松一株ありて、世に長福の松と称けり、近世枯朽して塚共は廢せり、惜むべし、往古ハ寺産五十石、寺境方一町余を寄附あり、小早川秀包悉く没倒し殆ど廢地とる、元禄年中僧方迪草堂を再興し、神代山安國寺の末派を轉じて、黄蘗派（同卷）と号む、如意輪寺御原郡横隈村にあり、清景山と号む、孝謙帝の勅願に依て僧

行基の岡墓なり、本尊如意輪觀音の佛像即行基の彫刻なり、中世殆ど退轉せむとせしむ、先君瓊林公古蹟の廢絶を歎き、堂宇を再興志ありし、寛文八年豫州豊範主と御原郡の内一万石を分ちて、与へ給へり、貞享元年豫州故有て改易ル及び、横隈村公領と成て、寺堂又破壊しけるを、近世御民の助成に依て、再び堂舎を造立し、真言宗の徒是を守り、同巻桂昌寺御原郡本御村にあり、種徳山と号む、往古ハ溪上菴と号せり、弘治三年御原山城守種連、再興し、寺田を寄附し、寺号を改て香華院と号む、畿（ミナト）の星霜を經て、類麁しける、兼應年中僧了波古蹟の廢絶を歎き、草菴を再

與し善導寺の末院と云。本尊阿彌陀佛像聖徳太子の作と
云。同卷又西光寺御原郡本御村にあり。永正年中右金吾大
夫大藏朝臣種勝建立して香華院と云。種勝子親種其子三
原佐右卫門大夫重種に至り繁栄の地あり。重種亡て後稍
衰廢しるるが。近世僧林西古蹟の断滅を歎き草菴を結て
千日念佛を修せ其法弟順西十方の祖力を頼み草堂を再
興し善導寺の末院と云れり。

○御勢大靈石神社

延喜式云筑後國御原郡御勢大靈石神社あり。契沖云御原
郡御勢ハ伊勢を誤るなるべしと云。又ハ然もあるべ

し。神名ハ伊勢と云名を肩せしるハ當國
御原郡其外の國にも其例ありし。

唱へある神名なるを其よしと書るよしヤ。何石神社と云ふ
は。大靈石神社西向也。拜殿。楹ありて神殿は楹なし。中殿ハ

尾背よりして。神殿拜殿ハ切や背より。御原郡十九ヶ村の産
沙神也。造営ハ御原西郡より執行ふ多し。樓門あり。

甚古し聊る森の内よりあり。大祭十二月十四日夕に神幸
あり。當村の内弓場と云所迄出まし。社記云。田地三町屋敷

一ヶ所。大宮司。田地三反。屋敷一ヶ所。惣巫女。田地五反。屋敷

一ヶ所。富赤氏。田地三反。屋敷一ヶ所。羽根木氏。田地三段。猿
樂。助使。屋敷一ヶ所。自本社在戌方。さて筑前國志戸郡今津

村壽福寺古文書云。法性國之御有持天神摩訶多國之大王
天照大神漢誕國之御鎮守權現。權現者七歳之御時唐与日
本垣之境五島而淨土會之觀音と現し給ふ。從其平戸之郡
康滿岳之主持權現云云是より天下第一大靈權現と現き
給ふなりとありハ。大靈石の御事なるべし。此古文書に於て
の赴ハいけ
多き事なぐ。大靈權現とありハ。大靈石を除きて外ハ似
寄多ることをさく聞及む事なり。此古文書ハ肥前寺井
豊前の彦山のこしな事也。出ぬれど。事長なり。筑後志二
省けり。文書のおりり。弘安三年正月とあり。筑後志二
卷ハ御勢大靈石神社御原郡大保村ハあり祭所。神仲哀天
皇。相殿神四座。天照大神宮吉富大明神。八幡大神。春日大明
神也。社傳云神功皇后摂政二年壬午鎮坐也。欽明九年庚辰

天武白鳳九年。宇多寛平三年。鳥羽天永三年。高倉安元二年。
五朝屢造嘗有て神田寄附あり。文明二年筑紫廣門又修營。
天正十四年兵火子羅て祠殿神庫共子烏有とる。就て又
神田に没收せし。同十七年神宮吉浦若狭守盛常假子神
祠拜殿を造て。祭祀をかくとる。後年大保村の農長某
是を修補しと云云。外宮ハ成未大明神を祭る。相殿神四座。
熱田大明神。香稚大明神。高良大明神。宇滿大明神。有り年中
祭礼多し。中世筑紫氏其儀を行ふとりへ。やも後世悉く廢
せり。當社の末社貴船明神。廣田明神。住吉明神。日吉明神。稻
荷明神。龍田明神。吉田明神。大原明神。加茂明神。祇園午頭天王。

以上十社故小社あり。今廢して本社亦移祭す。同書三卷。仲哀帝殯蹟ハ。御勢大靈石社前ニあり。筑後志三卷。禪福寺古趾御原郡寺福童村ニあり。其松山と号也。尊氏將軍の創立なり。中世兵火ニ罹て焦土と成て終ニ廢せり。同卷。乙隈館趾御原郡乙隈村ニあり。館主未タ詳多ク。今按てる。尔北條九代記ニ。曰後伏見帝正安二年七月北條越後守光時補鎮西探題。任筑後國乙隈村とあり。疑らくハ此時修營する所歟。筑後地鑑中卷ニ。御勢大靈石神社愚按此神亦久雖知之者鮮。近自寺社奉行被尋不見而頭之社務守之。大石村保少あり。國人云。大保村社ハ神宮吉浦氏世々奉仕すと云

又。祭日及土地宮殿等事ハいふ可く。序ニ云。和漢三才後國平松權現。在御原郡平松村。祭神日本武尊坐跡。社領五十五石とあるハ。一の神社ニ由ある事多し。又いふ。又。常足云。石の鳥居。尔正徳丁未。額又大靈石宮。門より鳥居までの間四十間許あり。神宮二家あり。何きも吉浦氏也。社の前。尔二回四方許石垣を造り上りあり。是と仲哀天皇の御墓なりと云上り。あり。其中ニ石を埋めりと云。

○長栖御

倭名抄ニ。御原郡長栖御あり。長栖ハ。那我須と訓へし。各義ハ。長洲の意なりと云。竹野郡も長栖御あり。又肥前筑後志ニ。御原郡長栖御今ハ廢きてなし。

○日方御

倭名抄ニ。御原郡日方御あり。日方ハ。比可多と訓へし。各義

ハ潮于海にて負せしる。地理を知らずハ定ぬ。又
負せしる。万葉集七卷。天露日方吹羅之水。荃之園。水川
尔波立渡と云事也。見え多し。又旧事紀又天日方奇日方と
云人各也。丁て筑後地鑑中卷。御原郡于海村山隈城山城
也。此山筑後筑前峯分之境也。或曰花立城。其始誰人之所城
歟。延文之比太宰少貳出張于此城。与菊池戰之時。陣營也と
あり。筑後志三卷。御原郡山隈城第一城十四間。第二城堅
二十六間。横十間。第三城方十八間。山城なり。筑後志
于海村
と書すと

○坂井御原郡坂井御原あり。内書。越前国坂井。坂井ハ依加乃井ともあり。

傳名抄。御原郡坂井御原あり。依加乃井ともあり。坂井ハ依

可為と訓べし。名義いさふ詳なり。酒井の轉まり。三踏郡
大坂井村。小坂井村あり。さて東鑑四卷。元暦二年七月十
三日。御原郡坂井村あり。さて東鑑四卷。元暦二年七月十
二日。鎮西事云云。平家没官領種直秀遠等所領原田坂井山
鹿以下所處。事被定補地頭之程。昔差置沙汰人心。靜可被歸
洛之由。今日所仰。遣參州之許也。御原郡より筑前御原
を奉て後考と。筑後地鑑中卷。御原郡大坂井村。小坂井村。
あり。とあり。筑後地鑑中卷。御原郡大坂井村。小坂井村。
あり。とあり。

○川口御

倭名抄。御原郡川口御あり。川口ハ加波具知とよむべし。
名義ハ小川の大川と流。入る處あり。とて負せしる。地
を考

ふるに御原郡の中を流きて筑後志原御原郡川口郷今ハ
十年の大川に流入す水あり筑後志原御原郡川口郷今ハ
しつゝしてなりとあり。倭名抄云武藏国多磨郡川口加波久
知越前国坂井郡川口加波久知とあり
此外も
多く見ゆ。

○岩田庄

東鑑十八卷元久二年五月廿四日安樂寺領筑後國岩田
田島西庄事就社僧等愁訴有沙汰今日被行地頭職於社家
云云あり岩田ハ伊波多と訓べし倭名抄云遠江國磐田
伊波多名義いさぶ考云て東鑑九二卷建保三年十一
月廿四日安樂寺領筑後國岩田庄事此國聊雖有全儀今日
遂所賜于近大夫菅原時賢之子有成也相州武州並前掃

部頭遠江守等加署判於御下文云云是有成同意平家之由

兄弟成賢依新申之欲被收公當庄之處不與彼惡行之旨陳

謝可然之間被令安堵云云印本筑後志原
筑前日誤云同書九五卷元久二年岩田

七郎岩田八郎云云同書四十卷建長二年三月一日造閑

院殿雜掌事之其目錄云云築地一本岩田三郎乃也云云あり

さて筑後地鑑中卷云御原郡上岩田村下岩田村あり

○大原

太平記三十三卷延文三年七月十九日菊池ハ先己手執
五千余騎して筑後河を打渡少貳陣へ相寄少貳如何思付
む不戰三十余町引退大原に陣を取らあり大原ハ於保波

良之訓へし。倭名抄五卷。出雲國大原於保波良七卷。近
江國坂田郡大原於保波良名義。廣原野ありて負せし
べし。諸國又多き又大原姓より有て負せしるもある
り。姓氏録。大原姓あり。さて筑後地鑑上卷。御原郡大保
即太平記所謂大原也。邑之西南有原野。即是哉。延文之古戦
場也。里老語曰。我聞南兵肥後之死于此者。凡千八百有余人。
上自大納言相。黃門。中納言下至步卒。北兵太卒死者三千六百
五十余人。通計五千四百五十有余人。本邦未有唯一日一場
而戰死者如此之衆多矣。後來南北合力。救其暴骨。建寺於其
側。以作佛事。我髻年屢遊其寺。自寺廢七十年。計于今也。尔云

とあり。地鑑。御原郡大保村。三箇

○生葉郡

延喜式。筑後國生葉郡あり。倭名抄。筑後國生葉。以久波
とあり。名義ハ。景行天皇紀。十八年八月到的邑。而進食是
日。膳夫等遺蓋。故時。人号其忘蓋。處曰浮羽。今謂的者訖也。昔
筑紫俗号蓋曰浮羽。鏡山氏云。生葉郡溝尾村。以久波島と
云とのあり。方十間許。又同郡姪川村。亦
御座石といふとあり。是景行天皇の遺跡なりといふ。釋
後國風土記云。昔景行天皇巡國。既畢。還都之時。膳司在此村。
总御酒蓋云云。天皇勅曰。惜乎。朕之酒蓋。俗語云。酒蓋。因曰。宇積

波夜郡。後人誤号生葉郡なり。序云。古事記仁徳天皇
的色射多。因て給へ。姓。て。赴。異。分。り。式。尾。張。國。海。部。郡。伊。久。波。神。社。倭。名。抄。淡。路。國。津。名。郡。音。波。以。久。波。と。あ。る。ろ。と。の。臣。より。轉。き。り。地。名。と。聞。え。多。り。さ。て。的。を。く。ハ。と。訓。こ。と。ハ。字。鏡。の。八。人。姓。由。久。波。と。あり。伊。と。由。と。ハ。通。ハ。し。用。ふ。る。さ。て。東。鑑。三。十。六。卷。筑。後。國。御。家。人。吉。井。四。夏。古。書。又。多。し。
 郎長廣。与同御家人矢部十郎直澄。相論當國生葉庄云云。鎮
 西要略三卷。貞和元年六月。管領代生葉敵云云。冬十月。城
 陷。歸傳多。應永戰亂。下卷。豊前國伊田川合戦件。四番生葉
 兵庫助二百余騎。筑後志四卷。同任所刑部太輔親照生葉
 郡小坂井村城主なり。其先ハ同邑所野中宮大夫三善康信
 六世の孫。同任所康行の後胤なり。文永年中康行ハ生葉郡
 を賜。同任所主となり。永禄年中康行十一代の孫。同任所安藝
 守鑑豊。此城ヲ拠。大友氏筑紫廣門と挑戰。少時鑑豊戦死。
 其後同任所治部少輔鑑景居城也。鑑豊子。同任所刑部太輔
 統景ハ。生葉郡新川村長岩城保。天正年中朝鮮の陣中。と
 戦死。其子同任所三石工門政連ハ。統景戦死の時幼弱
 多。又依て所領を失。立花家の臣となり。又新照子。同任
 所重直。其二男。孫助重能。子同任所次右工門某ハ。筑前
 中納言隆景。尔仕ふと云り。筑後地鑑中卷。生葉郡流川村
 立石城。東。西。三。十。間。南。北。十。間。の山城なり。同任所出張の城也。星野伯耆守高
 實一族。從延壽寺。數度依寄于井上城。同任所出張于此。雖搆

城郭防戰星野多勢故不能支持遂落城矣仍星野舊勢令守
城於此向住所出亡憑中國毛利公乞援兵毛利以數千軍勢
救之向住所援兵勦力斬星野衆取立石城押寄向住所自西
援兵自南夜討攻擊忽衆取城而星野敗北向住所於大生寺
後園討取星野之大將獲捷雪會誓星野者引退延壽寺城云
云。可。生葉郡小坂村井上城大永年中向住所親照所城也。
其子重直代筑前秋月軍勢襲采圍城侵伐之于時城中勇士
戰死者三十人因茲重直与弟町野孫助重信共去井上城新
川村長岩新搆城郭據之重直子次郎右工門秀吉公九州平
治之後仕于筑前中納言隆景高麗陣戰死次郎右工門子三

右衛門於柳川仕于立花飛州太守賜領知子孫存于今。地鑑

生葉郡長岩向住所氏親照大永年中所築地也親照負險
不降大國屢拉敵兵長子重直嗣之至嫡孫其勢不可支遂而
仕薛國城亦無在其山多楓自秋八
月至冬十月好景霜楓如暖錦甚佳可。生葉郡新川村長岩

城重直所城而其子次郎右工門天正年中為大友麾下十三

年據之。可。朝田村一瀨館町野孫次重信館所也。向住所善

長与重信自在井上城時兄弟不和。挾宿怨終天正年中善長

於此館兄弟互以刀共貫死矣云云。筑後志三卷尔。井上城弟

一城東西九間。南北十五間。第二城東西十間。南北十五間。弟

三城東西十五間。南北十間。の山城有り。長岩城第一城東西

十間。南北十五間。第二城東西十間。南北三十間。の山城有り。

天正九年大友勢筑後国井上城を攻り
同書四卷尔中津田

右馬允生葉郡小江邑の領主なり大友義鑑右馬允を以て

筑後川の支配を掌らしむる下知状あり
古本九州軍記八卷尔長岩城尔同

注折利部少輔統景町野五兵衛指毫て秋月勢を防且豊前より急を告度見元あり宗像創造始末事

書尔筑後国生葉山下西郡氏貞實子塩壽丸早世之後無相

續之嗣子于時氏貞依屬毛利家以小早川左卫門佐隆景新

毛利輝元公石州之任人益田玄蕃頭元祥之次男七内元竟

為養子天正十五年丁亥三月秀吉公為九筋征伐下向之時

氏貞者依卒去宗像之家臣許斐安藝守氏鏡占部日向守惟

安養男元竟具秀吉公之本陣於筑前博多松原勤降礼石田

治部少輔三成以取次件之西郡本領宗像郡相添賜之項戴

秀吉公御朱印曰卷尔田篁村松尾城新田与田篁村境山也豊川大友出張于當国之時暫攝之也

些あり次即大様ハ倭各抄五卷尔生葉郡大石山北姫治物

部椿子小家高西己上七筑後地鑑中卷子生葉郡五拾ヶ村

山口高壹万貳千六百七拾五石筑後志子生葉郡五拾八村

壹万二千六百石餘も些ありして地圖を按る尔生葉郡東

豊後國日田郡南本國上妻郡西竹野上妻二郡北千年川を

隔て筑前国上座郡子隣り土地廣狭事ハいさ考へ凡

筑後志一巻子袋野匿溝ハ生葉郡原口村子あり同書子有

玉開ハ生葉郡西原口村尔あり筑後河の中深潭折海十三尋

水勢透也。思るべし。土人傳云。古昔生葉郡は豪士あり。有王
と云強猛にして人を割也。一日戦ひ敗して自刎て此淵に
投也。然して後水底に其神を見馬衆て馳の形あり。地鑑上卷
生葉郡
有王淵ハ河中原潭處。名曰有王淵。問之則云昔有王丸者。視
俊寛僧都於硫黄島寛尋死。有王將還京師。經當塗躬親投此
水。死因以為名云。匿溝のこゝハ坑後志云。委しく見之。或
云。此溝ハ坑後川の水をひく料に堀也。寛文年中磐石の中
七十餘尺を堀通して。水を舟納山下の敷村。筑後志六卷尔
そぐ。是よりつて數十頃の田美地と云れ也。
將軍窟生葉郡新川村にあり。天工の窟中は八郎為朝像を
安置也。蓋為朝鎮西に追逐せられ。勇悍を以て筑紫九國を
押領。自終補使と称し。當州生葉郡を以て適居の地と云。帰
路の後。時の人其勇威を慕ひて。儀像を置崇敬する所なり。

故尔將軍窟と称す。生葉郡上宮田村重貞名の石窟人家の
際に在て。南に向ひり。入口四五尺四方にして。奥に入る處
二間許なり。そのおくは二間四方許の間あり。高八九尺あ
り。両方の壁ハ大石なり。其奥は又一間あり。廣さ前と同じ。
正面の石壁又左右とも朱書あり。文字の如くなり。その
なり。其數四五十許もあるべし。朱色損て黒黄なり。一字の
大さたて一尺三四寸横一尺許あり。是を見ることの大多る
松明二三つをとりて見るとなり。此一間は二階
あり。一枚の石にて作まり。廣さ置六枚許の廣さにして。厚
さ一尺余の石なり。其上高は四尺余あるべし。文字ハき之

て見之さるが多し、あざやうなるとの九四五字もあるべし。窟の上は古水生あり。

○若宮八幡社

棟札銘文に、筑後州生葉郡若宮八幡社拜殿一宇、厥以當社者、鶴岡勸請久安二年草創□□相隔不知、濫鵲委細本地者

今生後生能引尊地藏大菩薩文字不詳天正十年云云文字不詳

願主原日向入道、而神主安元伊豫守真神真文字不詳安元石文字

見やあり、若宮八幡和加美也と訓べし。若宮八幡祭神應神天皇

を申す。此社あり、處なるは依り、御社ハ生葉郡吉井御若宮村

又あり。相殿ハ仲哀天皇社記略ニ、久苗米城東七里箕尾山

北丘林中有八幡社、當近衛院之御代、鎮西八郎為朝所造立

也。久安六年為朝十三歳身大力強事勇猛、父為義追之海西

即居豊後國城、娶阿蘇三郎忠國女、自号鎮西惣追捕使、此時

鎮西有菊池原田松浦緒方、其外諸豪各割據州郡為朝僮從

家人、忠國為前導、歷覽方土、遠近險易、未當國生葉郡於福富

高林之地、著戎衣、致祈願、集兵出師、所向必伏、所攻必陷、及三

年九州悉從、於是於高林之地、勸請鶴岡八幡社、号若宮八幡

社、社壇南向、是表鶴形、神殿拜殿、櫻門、回廊、玉垣、鳥居、悉備、仁

平三年九月十九日、所奉鎮座之神三所、中者應神天皇、西者

比咩神、東者神功皇后、仲哀天皇也、拱社者、天照太神、春日社

坂本兩社等也。奉納神宝寄附社領定祭日。久壽二年為朝依
勅歸浴於是御民等刻木為朝影像置岩穴內。今新川村將軍
岩是也。尔後壽永元曆比若宮社羅兵火悉為灰燼。文治三年
三善清行之苗裔町野右馬頭康倫再造立宮社。嘉祿二年星
野八郎京節來居星野館。信仰此社寄附社田。子孫相續尊崇
此社。其後又依兵火炎上。曆仁元年三善清久復再興之。云云
向注所康行文永年中賜生葉郡來居小坂城。尊崇此社寄附
社田。此後寬正十年又燒亡。至寬永二年祠官等戮力募眾構
神殿。同十一年立鳥居。正保元年建櫻門。慶安二年拜殿成。兼
應元年先君瓊林院敕忠賴公有社券。一覽神劍。更命社人等。

嚴重祓令守之。明曆二年於拜殿左右建坂本兩社。万治三年

鐘樓初成。寬文九年作神輿始行幸。貞享二年新造兩殿。元祿

四年建神樂殿。又於東丘建天照大神宮。云云。此社記と云。久

右近文正と云人の撰なり。長
し。此を今其文を約めて引り也。延享二年書上。弘勒寺若

宮山觀音院。若宮八幡宮鏡像三躰神殿拜殿櫻門石鳥居地

藏堂藥師堂觀音堂阿弥陀堂坂本宮御供屋鐘樓弥勒堂祭

礼九月廿九日神元安元上鈴同安元將監大宮司安元圖書

社人土屋治部。筑後地鑑上卷子。生葉郡若宮八幡宮當郡宗

廟而有三社。神祠南面而東。相殿仲哀天皇。西相殿神功皇后。

嘗六條判官為義八男鎮西八郎為朝。豐州左近之後播。近當

郡菊富庄勸請鎌倉鶴岡八幡宮。尔後同往所康行領當郡之
時再與奇供田有大刀一柄為神器也。長七尺。社務号若宮山
弥勒寺。云云當社之祭礼九月九日。神樂有御幸。参社男女
老少神前成市者也。あり。神官二家あり。安元氏あり。若宮社よ
己半町許東は日圓あり。西は月圓あり。日圓は大神宮社あり。
西國は八稻荷社ありしと云を。今八月神を祭まじり。二共
尔國ハ土を築て造り多る圓あり。文化二年春月圓あり。石
櫃を堀出せり。長八尺斗。高四尺。深さ四尺斗あり。蓋尔
石。棒を造つけあり。徑五寸斗あり。て九く長一尺斗あり。
るべし。一方は云ありてありて合て八あり。此櫃、内は太刀玉
釵を有し由あり。を。領主命て又初の如く中は入て蓋
を蓋ひて。上は神殿を造り。床の上は幣帛あり。床下は櫃
あり。さて入初より櫃外はあり。あり。有用物と云。種々の
武具あり。今世は目あり。櫃外はあり。あり。有用物と云。種々の
とあり。數九ありしと云。を。皆崩きて今一のうれ。金をさ
せし。了。慶ハ詳る。と。其外くして其形知るぬ。慶もあ

己目びさし。の下は金。瓔珞あり。あり。古鏡あり。とあり。兜
のさ。又ハ源平。乱の比の物と云。聞へ。夫より古き代め
物なるべし。さて縁起文。は所野氏。此信仰せし後。又同往所
氏。生葉即来あり。て此社を信せし。其記せるハ。いり
あり。む。所野平川。西氏とも。同往所氏あり。して後。別き
る家あり。

○熊上八幡社

上梁銘文。奉建立大日本國西海道筑後國生葉庄熊上八
幡大菩薩御宝殿一字。右赴意者。四海太平。國家無為。一村無
事。万民快樂矣。專祈當檀那福壽增長。子孫繁昌。家内無事。万
吉云云。天正十八年。庚申仲春吉日。大宮司藤原朝臣田中右近
尉大工。星野下總守照清。高橋右門丞泰家。當庄屋藤原朝臣高木治部守友。
同當庄屋親父又才禪門。同三郎次郎兄弟六人。出葉太郎九

工門吉江之村住人藤龙工門同藤三郎己上表當国守護小

早河隆景己上禮以奉建立大日本西海道筑後國生葉庄熊

上八幡大菩薩御拜殿一宇云云慶長拾年己霜月十五日大

宮司藤原朝臣田中五郎龙工門大工松尾源右工門丞宗清并手土佐守種徳

當庄屋藤原朝臣高木彦龙工門尉守鎮當庄屋子孫七郎三

郎鬼束四人同庄屋児弟市右工門児弟四人當散新丞己工表の

文な當国守護田中吉政とあり熊上八久未能敬と訓べし

此ハ生葉郡熊上村在て祭神若宮社同社ハ南向し

て祭礼ハ九月十九日十一月十九日西度あり人右方あり

竈殿あり龍本寺堂あり熊上東西兩村産沙神あり社東熊

上今神宮を田中讚岐と号すあり

○無漏権現

上深銘文あり奉再與筑後國生葉庄無漏十二所大権現御宝

殿一宇專願神風永扇國家弥豊右志赴者為天長地久御願

田滿殊大檀那藤原持朝息災延命禄位增長永亨十年戊中

召初二馬當檀那調上総守實世勸縁調貞世同銘文あり奉造

與無漏大権現高崇十二社権現威力永為求當家鎮國太平

眷猪信違補嗣之素懐伏冀大檀越壽福增長武門嶋昌景世

色力剛健四時無災八節有慶就中佛法王法羌安盛殊社門

檀門同繁栄文明九年丁仲秋七八日調董星野伯耆守集家

大檀那調朝臣職恭敬記々々あり。無漏推現日古棟札四枚
あり内二枚ハ文字見え
ずる由延享三年の旧記
見え多し寛文二年の
指出書ハ嘉禄二年の棟札
ありし記せり今ハ
す。

寛文二年指出。金谷山延壽寺無漏山十二所推現十二躰

木像。阿弥陀如来。千手觀音。藥師如来。十一面觀音。地藏菩薩。

龍樹菩薩。如意輪觀音。正觀音。普賢菩薩。文殊菩薩。釈迦如来。

不動尊とあり社ハ北向て立也。延壽寺村産沙神なり。今神

宮永田出羽と云。元禄十四年拜殿の棟札ハ大宮司永田
武左衛門と志りせり。

○妙見社

筑後志二卷尔。妙見祠生葉郡新川村あり。寺を妙見山正法
寺と号也。寛平七年肥後国八代郡妙見大菩薩を勧請せり。

云云。正長二年今の神殿を再興也。寛文二年言上書。生葉

郡新川村妙見山正法寺朝田院妙見大菩薩本地釈迦觀音
阿弥陀

木像三躰南向。善神王木像三躰。本地堂御供屋。神殿。拜殿。一

同元寛平七乙卯歳肥後国八城。妙見大菩薩勧請仕熊抱平馬

太夫平行定と申。社人御供仕来候由申傳候。縁起宝物宮帳

其外證文之儀者落去之時分取矢候由申傳候。一正長二己酉

歳叙氏玄柳平康重源國家造之由。神殿棟木于今書付御

座候。祭礼九月廿五日とあり。正法寺ハ絶て傳りし也。今ハ

神宮熊抱若狭是日奉仕也。

○大生寺

豊鐘善鳴録三卷。尔。無著禪師講妙融。族氏日野。隅州人也。云
云。至徳甲子。應鑄尼氏。詣肥之大陽山玉林山。如作之大中。
越後之光徳。肥前之持福。匡王宣徳。筑後之大生雲峰。豊之永
泉永照。皆師之所同闢也。筑後地鑑上卷。生葉郡五葉山大
生寺。後小松院。明徳二年辛未。無著妙融禪師之闢基也。素雖
爲曹洞派。近世臨派之僧守之。山上。殿堂。門廡。遙直下打里好
景頗好。北筑雜稿。生葉郡山中有一禪刹。号大生寺。境地頗
好。寺中有石居氏碑。寺主月洲記事石居氏。乃先君殉葬五人
之一人也。云云。又筑後志三卷。大生寺。生葉郡
流川村。あり云云。先君瓊林公寺田三十石を寄附し給へ

已云云。末院。同郡朝田村西光寺。同小坂村松樂寺。同山北村
清水寺。是なりとあり。寺ハ大生寺山麓にあり。西北の間は
向へり。

○木樵大明神社

生葉郡大石村。木樵大明神棟札銘。云云。大檀那調宿祢黑
木兵衛尉信定。釜瀬大和守調家。多當代官釜瀬大膳亮玄甫
文祿三年^{甲午}六月吉日とあり。木樵ハ支古利と訓べし。寛延
年中の縁起。豊後女清原真人正高永観元年の草創なり。
神領平島原口の内。又七五町。元社司領五町。を寄附す。
是。毎年七月廿五日。又西原口の岩と云處。に神幸すし奉り

しも、天正年中子至てハ、生葉竹野兩郡あり、神幸子奉仕也
云云とあり、末社子金吾別當社あり、宝物又も縁起一巻、神
鏡二面、獅子一頭あり、官司云古縁破損して、近來子書改め
多りと云、猿樂、假面の如くなり、物三あり、一面の裡子作者
豊州日田之住高瀬右京大藏統定、持主筑州生葉之住野
速綱とあり、豊後国球珠郡瀧神社縁起略尔、少納言清原朝
臣正高云云、遂通孝光天皇之妃小松女院垂及
露顯被解任少納言云云、轉任豊後云云、采當国球珠郡而
娶夫野檢校兼久之女、生子于時被女院從正高跡先下豊前
国即采當国球珠郡云云、途一樵夫、問正高之所在、樵夫詳告
之、及矢野檢校女之事、女院不堪恨、投身沉瀧水云云、樵夫悔
之、投身死、散隨流、至筑後国生葉郡大石村、里人祭之、為神社、
樵夫別當社是也とあり、

○生葉行宮

豊後風土記日田郡件云、昔纏向日代宮御宇、大足彦天皇、征代球
磨贈於凱旋之時、登筑後国生葉行宮、幸於此郡とあり、筑後
志三卷尔、景行天皇、御座石ハ生葉郡新川村、山中栗木野尔
あり、新川村より星野村に越る山路の傍に大石二あり、其
大なるを御座石と号也、縦一丈八尺、横一丈餘、厚一尺余、
して、石面平なり、小なるを鋒立石と号し、石面子鋒の鐔を
立へき穴あり、傳云、景行天皇上妻郡より此地に至り給ひ、
彼石穴に鋒を立、石上に穂ひ給ひし古跡なり、

○星野

延壽寺村碑銘云、慶久云、祐定門心佛及衆生、其三魚差別右

意赴者忝以調氏星野賢者須竹南畔扶桑國筑後州生葉郡
所而于時丙子之冬廿八日一家相分歎卒未軍兵刃攻戰怖
畏軍陣天道現神通衆退散私致忠切然則難瘡蒙傷疵勝譽
於方也。同晦日生年十六歲而終焉。慈母悲泣慟哭之餘立此
宝篋印塔基於市中為令往賤之者情非唱佛名之聲也。云云
于時日本永正十四年丁丑。應鐘九日誌。とあり。此碑ハ天明
の頃延壽寺村より掘出せり。銘文滅しある處多し。星野氏
の城跡ハ彼村後の山にあり。今村落ハ其時の城下なりと
云。星野ハ保之乃と訓べし。名義ハ星ハ縁ありて負せり
べし。倭名抄ハ駿河國會星武藏國星川伯耆國星川多志也

あり。東鑑四十一卷。星野出羽前司季義云云と見え
多志ハの事と聞え。神社啓蒙七卷。云云按雲林有
星野氏者云。昔日而壬角力之時。掌勝負者之後也。未知果是
否。とも見え。多し。調氏系図。多田藏人行綱子大藏大輔源
助能云云。助能初て調姓を賜ひ。後ハ當國上妻郡黒木
末文。多志。香く上妻郡の件ハ引出きハ。多志者
。助能子。川崎三郎貞宗。次星野中務太輔胤實。次女子黒木
四郎定善。胤實者星野氏鼻祖知名八郎九母者待宵。小侍從
京都樋口小路之産也。初徳大寺實定私通。小侍從胤實實者
實定卿之落胤也。或称後鳥羽院之落胤。託實定卿為子云。堀
河院之時。賜封於胤實。以筑後國星野。嘉祿二年十一月来于

星野攝館于本星野而居焉。且星野山中築內城高岩之西城。其後子孫繁茂。領生葉竹野兩郡之中若干村。以龜甲藤丸為家紋。胤實子星野右近大夫鎮實。次植口次郎太即實安。次植口越前守實隆。鎮^實初居本星野館。後讓星野於弟實隆。築延壽寺村福丸村城。移居于福益館鎮實子。星野民部大輔鎮能。鎮能子星野宮內少輔鎮行。鎮行子星野八郎元行。元行子星野志摩守元實。元實子星野民部大輔元親。元親子星野下總守親實。親實子星野志摩守鎮忠。鎮忠子星野中務太輔鎮種。居高島城鎮種子星野下總守實世。居福丸城實世。子星野伯耆守職泰。居福丸城職泰子星野伯耆守元康。居本星野館。次植

口實房。元康子星野下野守鎮康。築石垣邑中山城。鎮安子星野中宮大輔吉實。次星野右衛門大夫重實。吉實居福成城。元領生葉郡三十二村竹野郡東郡五百町。當此時豐後大友氏肥前龍造寺互爭九州。吉實剛將獨立不屬兩家。于時龍造寺隆信掠略黑木之領地。星野黑木以同族之故。吉實共據貓尾城。拒守。且使二男正實守福丸城。大友氏為稱援兵。使竹尾外記者入猫尾城。即陷。去計遂害吉實。以是黑木家遂屬于龍造寺。吉實子星野常陸次親忠。次星野伯耆守正實。親忠榮生葉郡妙見城。驍勇之將而不從強國。天文元年大內義隆率數万騎來攻。親忠自統三千餘之兵守禦三日而城陷。遂戰死。後太平記

十四卷。星野等南朝。亦味方して大内と筑前とて合戦し
討願て大内と降る事見之なり。應永五年の事也。又元五卷
亦。明應元年。將軍江州。奈向。件。星野常陸。人親忠と云名見
之。多。應永。戰乱。記。下。卷。筑後國。在。人。星野常陸。人親長。大
友氏。時。の。味。方。と。成。て。豊前國。田川。郡。子。奈向。し。戰。願。て。大内
勢。の。為。り。討。る。事。見。之。多。り。隱。德。太。平。記。六。卷。大。友。義。長。
時。筑。後。國。星。野。伯。耆。守。先。祖。大。友。子。對。し。七。代。子。乃。を。列。す
し。と。起。諸。文。と。書。多。り。を。伯。耆。守。忽。反。心。出。來。て。伯。耆。守
が。葬。禮。と。稱。し。て。一。日。内。子。七。度。子。で。執。行。し。て。後。義。長。子
對。し。て。疚。心。を。抱。き。つ。り。と。あり。大。友。義。鑑。星。野。城。を。攻。る。夏
隱。德。太。平。記。七。卷。見。之。多。り。正。實。居。福。九。城。屬。肥。後。菊。池。氏。依。之。大。友。勢。來
攻。擊。之。正。實。不。能。保。城。出。奔。于。周。防。國。山。口。附。屬。于。大。内。家。大
内。氏。与。豊。前。國。糸。庄。令。領。之。号。之。糸。星。野。遂。卒。于。山。口。豊前國
田川郡

位。登。八。幡。社。神。解。敷。板。銘。文。子。天。正。九。年。十。一。月。云。云。時。地。頭
調。朝。臣。星。野。九。郎。實。旨。代。官。星。野。九。馬。太。夫。實。友。と。あり。

子星野九左衛門尉實信。居福益館。天正年中。小早川隆景受
封於筑前國。筑後國生葉竹野御原三郡屬之。是以實信任于
小早川氏。賜采地二千石。慶長年中。小早川氏移封于備前之
後。實信應立花統虎。侯。招。到。柳。川。立。花。氏。又。移。于。奥。州。實。信。仕
肥後守清正。賜祿二千石。重實居本星野。正實逃周防之後。屬
大友氏。以其命。攻大生寺村。立石。城主向注所氏。逐之。遂據其
城。煎其領地。其後大内氏欲使正實歸入于旧城。与筑前。秋。月
種實謀。乘立石之虛。共攻擊之。此時重實從卒多在星野。立石
兵甚少。而不能守城。重實突出戰死。所謂大生寺茶園畑之戰
是也。重實。子星野中務太輔鑑泰。實者蒲池氏之男也。母重實。

女也。重實戰死。正實移于豊前。以星野家無主。大友氏使鑑泰為星野之家統。初居白石城。後移福丸城。於肥前國勝山戰死。鑑泰子星野右卫門大夫鎮虎。次星野中務大輔鎮胤。次星野民部大輔鎮元。鎮虎居白石城。為肥前龍造寺氏被追出。遂入福丸城。与弟鎮胤共守之。兄弟不相好之間。又去到豊後。寄身於大友氏。遂卒于豊後。鎮元胤居福丸城。後構竹野郡麥生村内山城居焉。又移居于星野高取城。此所高實曾所領千余町之地。鎮胤領之。屬薩州島津氏。天正十四年八月於筑前國粕屋郡若杉城。与弟鎮元共戰死。軍記云星野中務大輔吉實。弟民部少輔吉兼。とあり。尚若小し。

命老臣星野右卫門依朝依之。同列之老臣星野高角二人居妹川。樋口越前守居星野。下令曰。若有軍事則三人之老臣相計。以越前守為謀主。艾共命。共可為守禦之術也。鎮胤戰死之後。右衛門依謀反。小早川氏与鍋島氏謀誅右卫門依。鎮之亦失領地。後仕鍋島氏。樋口系因小樋口次郎太郎實安者。京都樋口實之二男實隆。共来于星野。居十卷。無子。養實隆為子。星野家有隊長七人。号七組。樋口氏其頭也。所謂七組者。惠良。古野。浦仁。田原。星野。高角。是也。樋口越前守實隆。幼名三郎。次郎胤實之二男。為實安家督。改氏樋口。居十卷。鎮于孫代々。為星野家之執事。實隆子樋口次郎太郎實繼。住本星野。鎮實繼子樋口九郎右卫門尉實元。實元子樋口四郎三郎實國。實國子樋口掃部助元鎮。元鎮子樋口次郎右卫門尉實淵。實淵子樋口四郎右卫門尉實茂。實茂子樋口新九郎實存。實存子正入。夫實栄。實栄子樋口源助實行。實行子樋口四郎右卫門尉實房。實房伯耆守元泰之二男也。實房子樋口越前守實則。實則子樋口内藏助實豊。實豊右助三郎天文十三

年三月九日死。行年三十歲。實猶，室八豐後國袖木邑津江
周防守長谷部。鑑盛之女也。明曆二年九月十七日辛于長尾
鑑盛以善笛鳴也。領竹野郡二田村。其部村且領肥後國中二
村。實長，三男。樋口四郎三郎實有，麥生之兵攻內城之時戰死。
實長，四男。樋口次郎左衛門尉實泰，仕立花家。領二百石。慶長
五年於筑後國八院合戰戰死。次女子繼室所生也。為田中家
臣杉原金左衛門專，杉原氏後仕有馬家。住久留米。五男。樋口
从右衛門實未，妾腹子也。初居宮藏後共孫大學，退居于本星
野。六男。樋口角兵衛實俊，妾腹子也。母若浦村太郎右衛門之
女也。初住浦村。實長沒後居其家宅。實猶子樋口掃部實利，雖
為實猶之實子，不續本家。初住合瀬。仁田原氏。純無居者。故移
于仁田原。居焉。延宝八年十一月廿一日辛。實猶，二男。樋口庄
左衛門實次，為實猶之家督。初仕田中氏。後仕有馬家。延宝元
年十二月十二日卒于長尾。次郎左衛門尉實泰，子樋口次郎
左衛門。幼名大八。初仕田中家。後辭仕居十篁。實泰，次男。樋口
正兵衛。三男。樋口安左衛門。到筑前為上座。即古賀村。農長。云
云。少少。筑後地鑑申卷。子生葉。即高岩城。星野重忠所城時
代不詳。筑後志。東北十五間。同村白石城。重忠之甥。正實居

年於福九城戰死。四十二歲。實豐，子樋口勘前守實長。知名官。松丸
仕田中氏之時。改。越中守。秀吉公九州征伐之時。領御戰。子息
長亮在福九城。諫長亮。以為當時秀吉公兩被。天下直降。伏以存
星野家。事未成。老臣右衛門謀。及夜襲。實長本星野之館。出于其不
意之間。後兵不集。本館入內城。防戰。術盡城陷。室人及四男。四郎
三郎。為敵所害。實長苦戰。出圍。奔于筑前。遂造立花。云云。小早川
氏。以筑後妹川村星野谷。與實長。其後如竹野。即筒井村。富奈村。
片瀨村。田主丸行。生葉。即包本村。為實長父于之采地。仕小早川
家者二代。其後又仕田中氏。如日賜。妹川星野。又如山門。即本石
村。深倉打。三池。即岩津村。生葉。即流川村。田中氏國除時。以其年
老。故不復仕。出。十篁館。移。千々谷。遂退斗隱于浦村。寬永四年正月十日
卒。行年八十六歲。實長，室者豐後國高瀬。伊賀守之女也。天正十七年
於內城。與實有。同時討死。以式部子權。今如少。再嫁實長。養護。推人實
長。於具封邑。妹川。地二百石。與權。推。今合。樋口惠良之兩氏。改。
惠。上。男。惠。口。右。衛。門。尉。實。長。女。子。為。止。葉。即。若。宮。別。當。塚。本。式。部。
專。初。住。岩。光。後。移。星。野。土。宅。其。子。四。郎。右。衛。門。實。猶。沒。後。移。長。尾。
輿。依。實。次。後。為。星。野。谷。農。長。實。長。嫡。子。樋。口。掃。部。實。為。秀。吉。公。
朝鮮征伐之時。屬。小早川氏之軍。文祿元年四月戰死于朝鮮。
行年二十七歲。實長，二男。樋口九郎右衛門尉實猶，子兄實為。
同軍于朝鮮。歸國之後。續父職。前守之家督。領其本地。慶長三

住之館也。筑後志云東西十五間南北五間とあり。同村鷹取城ハ重忠曾孫重種
新城也。按此城自高岩遷此歟。又庶子別歟。又西隈上村城。
筑後志云東西十間南北十一間。屋形千代久境之山城。延壽寺村福九城。筑後志云東西十一間南北十一間。同村山之古城。右四ヶ城。星野伯耆守高實攝
之。与大友防戦所也。出張之城也。妙見城。山城也。是又星野出
張之城也。同書上卷云。生葉郡金山在星野川内。二田原慶出
金諸國者来而掘金。數年而今則止矣。又麻生池在星野山
中高山傍。池面堅及二百間。横百間。或五六十間。池辺喬木茂
々。雖夏日涼風凜乎。枯木朽仆而横。池面者如龍蟠。又似地形。
雖池魚後辺多人。恐而不取之。旱魃民聚而雩。無不有應。側有

社司。崇此水神。以壇壇一方安置本地十一面觀音。立堂有小
島。有橋。下深谷幽玄。扶桑紀勝五卷云。生葉郡星野ハ水繩山
の南云あり。山中云長谷あり。水ハ東より西に流る。此水豊
後國日田郡の隈より出て。下ハ南筑上妻郡を流きて。西海
入る。千年川ハ入る。山中東西五里餘。南二里。或ハ一里あり。田
畠高六百三十石。民戸八百。口數三千人許あり。て土産ハ紙。
茶。漆。苧。炭。大鱈。多々多し。又金山あり。大木多し。谷々ハ民家
あり。村數十六あり。頭百姓を山頭と云。星野南山を越て又
黒木ありとあり。筑後志二卷云。陶器ハ生葉郡星野村十箇
各の産あり。往年上妻郡萩形焼を傳来し
近未建山焼の茶器を製す。好品なり。先君命有て御井郡
の地よりして陶器を製し。め絲小。是を遠近に販ぶ。其製肥州

の伊万里焼子等し。今廢せり惜むべしとあり。さて調氏系
四ハ郡西夢生村庄屋十右工門と云者の家ととり。

○無漏山推現

社記略云。無漏山推現者在生葉郡星野村。嘉祿二年星野八
郎勸請紀州熊野推現。神宮氷室源三郎供奉之。毎歳正月十
五日。執行神樂元百千的。境内有天工岩窟。阿蘇山修驗入峰
之時宿此窟。古未為定例。筑後志一卷云。無漏山ハ生葉郡星
野村子あり。巨嶽四方子壁立し。岩罅自洞門をくして恰空
中尔入が如し。周回悉く怪岩龍竄し。老松枝を文へて。實子
絶妙の地なり。古昔氷室某京畿より来多りて。熊野神を祠
祭と。今無漏山推現と称す。夕とあり。
久留米、士早川一照云。星野村、無漏山推現ノ社。

櫻門あり。又射礼殿不動等あり。又阿蘇山山伏の護摩を修
する處と云云。此ありと云云。此社事いあり。旧證を得と。重て
かむくあり。筑後志一卷云。星野村山上子麻生池あり。池
面東西百余間。南北百余間。甚深き事もろろへり。喬村
鬱蒼として。湛水藍の如し。池辺子祠あり。祈祭神ハ健甕龍
命なり。池行子拜殿の之有て。神殿なり。池を以て神とりる
が故なり。毎歳十一月十八日祭礼あり。村民集會し。伎踊を
為す。事恒例なり。俗は是を池祭と云云。又池中子小島あり。弁
財天社を建立せり。此池は雲をり必志るし。ありと云云。此
池事ハ地邊より出て。初日ハひりか如し。一照云。此社の神
官一人あり。氷室遠
江とり小。

○生葉山

肥前國風土記云。筑後國御井川渡瀬甚廣云。云。就生葉山為
船山とあり。生葉山詳筑後志云。高升嶽ハ生葉郡小塩村子
あり。層巒險絶言へか。此峰中央と以て豊筑思とす。此地

中世大友親繁と、黒水三池小代等といひ有、昉親繁陣を此處に營む。蓋其嶮に據るるなり。是を生葉山と云べきなり。

○大石御

倭名抄に、生葉郡大石御あり。大石ハ、於保伊之と訓むべし。又日本書紀と云むべし。和名抄に、名義ハ、石の多き處にて備中國賀夜郡大石、於保之とも有。名義ハ、石の多き處にて負せしむべし。生葉郡大石村西大石村あり。大川の南よりつきよる村なり。天正の頃、堤刑部貞長が家族に、大石或部貞吉と云者有也。此處に因る姓なりと云べし。又天正中、筑後石神主西人といふも、うらなを云ふ。大石村に大石の邑深として石を切通して珍らしく造る溝あり。此溝の水、生葉竹野山本三郎の田地にあり。又、膏腴田二千余頃を養ふ。溝ハ、寛文の頃、初よりて宝曆の頃、又造畢せり。委き事

ハ、筑後志一巻に見えあり。

○山北御

倭名抄に、生葉郡山北御あり。山北ハ、也万岐多と訓むべし。名義詳ならず。生葉郡に大山多く、其北にあり。此郡皆山北なり。此御の之に限りしむべし。山北野北川北海北葦北など、只又北にりし事ハ、ありしむべし。思へる處とあり。さて東鑑十八巻に、荒田庄、地頭山北六郎種頼とあり。荒田ハ、豊後内子筑後志四巻に、山北四郎永高ハ、承平年中、生葉郡山北村人、姓氏未詳ともあり。筑後地鑑中巻に、生葉郡山北村、筑後志に、生葉郡山北庄なりと見えあり。筑後志二巻に、加茂神社あり。執政岸外記、正知の社記あり。其詞云、筑後國生葉郡山北村加茂社ハ、大官司兼懷平馬太夫泰行景

兼平元年子勸請云社家傳云三毛入野命の後胤山北四郎
大藏永高と云人あり新川の河と小塩川と二流有て爰に
至て一子成て流るる鴨河に似多しとて加茂社
を勸請せり云云とあり又山北村に三次大明神とてあり
景行天皇筑紫巡狩の時此地にて天神地祇を祭賜ひしよ
己未毎歲十二月晦日より正月元日に至て祭礼絶る夏
夕し社田を寄附せしと云と漸廢し今十一月初西日同邑
加茂神社の神職熊懷氏未て神樂を奏し祭礼を行ひ十二
月十九日又祭礼あり其料として田圃六町余を村民より
奉附し毎歲怠るること無し同三卷に窟堂古趾生葉郡小塩
村にあり縦三間余横六間余高一丈余天工の岩窟あり康
正元年開基して同岩山妙仙菴と号せ尼寺とあり今ハ瘡
て三龜の古佛のこ
残きり

○姫沼御

倭名抄云生葉郡姫沼御あり
倭名抄云讚岐國刈田郡姫
沼ハ比賣遲と訓る
式尔出雲國出雲郡比賣遲神社と云む
あり又姫ハ雁の誤にて加利遲とよむ

今ハ瘡きてなしといひり
常尾考よるに姫沼ハ雁沼の誤
はヤ兵部省式云筑後國狩道、馭あ
是はカリナとよむなりべし
筑後志云生葉郡姫沼御

○物部御

倭名抄云生葉郡物部御あり物部ハ毛乃乃倍とよむべし
駿河國益頭郡物部毛乃乃倍なり其外も例多し物部と
云御名倭名抄に多く出する中に毛乃倍と云訓注の入る
るハ皆の文字
各義ハ物部の居る處にて負せらるべし
欽明天皇紀云有致臣所將來民筑紫物部莫奇委沙奇能射
火箭和尔雅尔筑後國高良大明神在三井郡玉垂命也是物
部氏祖神也とありなり見えらるる
なす竹野郡二田御又
肥前國三根郡物部御
件をも考して筑後志云生葉郡物部御今ハ瘡きてなしと

云已。高良山の祝部は。物部氏あり。うくの物部
りり出ふるなりや。

○椿子御

倭名抄は。生葉郡椿子御あり。椿子ハ。都婆和名抄は長門國阿武郡椿木郡不幾之訓へきり。

抄は。椿唐韻云。椿。勅倫反。和名豆阪木とあり。さて上田百木
が説は。生葉郡椿子ハ。椿木の誤なる。上妻郡椿原村と云

もありと云はし。あり。名義ハ。椿を多く殖生しふる處なり
とらと云はし。有べし。

よて負せしるべし。この國々より。海石榴油を貢。さて地
をること延喜式は見えあり。

鑑中卷は。上妻郡椿原村高牟礼城。黒木。大老椿原式部。天正

十二年九月。反心而叛。黒木所。楯籠之邑城也。釘原中川原拳

義兵。報君讐。誅殺式部。後此城破却。筑後志は。生葉郡椿子御

今ハ廢してなしと云已。

○小家御

倭名抄は。生葉郡小家御あり。同書ハ播磨國揖保郡小宅古伊倍百木云。生葉

郡小家ハ。千也。計聖訓へし。姓氏録は。小家連ありと云已。さ

て筑後地鑑中卷は。生葉郡小江村。筑後志は。生葉郡小家村

なり。今小江村ハ。作るなり。志説ハ。うれむ。小家ハ。初メ

なり。よく考ふべし。

○高西御

倭名抄は。生葉郡高西御あり。筑後志は。生葉郡高西御今ハ

廢してなしとあり。上田百木云。生葉郡高西ハ。高田を誤る

なり。べし。今此郡ハ。高田村ありと云已。百木ガ説ハ。もあり

高西ハコヒとよむべきなり。地名にて西を勢の假名に用ひ
ふる例和名抄に見えぬなり。三儲郡瀬下九、十、瀬入道ノ事考
へあり。あそ

○吉井

東鑑三十六卷。寛元二年六月十六日。筑後國御家人吉井
四郎長廣云云とあり。吉井ハ与志為と訓べし。名義いふ
詳なり。筑前怡土郡亦も吉井村あり。回書編五十卷。筑
前州とあり是なり。諸國多き地名なり。太平記九卷。元亨
と云人。さて筑後地鑑上巻。云云生葉郡吉井亦も養鷄
待夜使捕魚者是曰夜川。同書中巻。後久留米豊後海道至
吉井去久留米六里有餘。西道山辺草野町駅次中田主九

町駅次也夕空あり。

○得安名

東鑑三十六卷。生葉庄得安名屋敷田島事云云とあり。得
安ハ等父也須と訓べし。此地今詳あり。今徳安と書て
ふる姓あり。此地より出
ふるなりや。

○竹野郡

延喜式。筑後國竹野郡あり。和名抄。筑後國竹野多加乃
之あり。名義ハ竹林などありて負せしむべし。倭名抄。丹
後國竹野郡竹野と云もあり。さて三代實録十二卷。貞觀
八年三月四日。太宰府解云。觀音寺講師傳燈大法師位性忠。

申牒寺家人清貞宗位等三人從五位下望朝臣廣呂五代之
孫也。廣呂天平年中為造宮使。廣呂通寺家女赤須生清貞等。
即隨母為家人。清貞祖父夏廣呂向太政官元太宰府。頻經報
許而未蒙勅裁。夏廣呂死去。清貞等愁猶未有正寺家覆察事。
非虛妄望請準據格旨從居貫附筑後國竹野郡太政官處分
依請。將軍家政所下可令早安藝左助師時領地。筑後國竹野
庄內得久金丸名主職事。右為肥後國鯨御內得次名。晉所被
宛行也。者守先例。可致沙汰之狀所仰如件。以下。弘安二年十
二月廿八日。安主菅野知家事令左衛門尉藤原別當相模守
平朝臣とあり。此文書ハ會津家士津川七郎左衛門所持也。

筑後地鑑上卷竹野郡小川村者。大友氏之臣。小川伊賀守某
者之所居守也。大友氏尊信耶賴宗。伊賀守惡之。大友怒遣兵
擊之。伊賀守一戰而歿。死于此處。同書中卷。竹野郡麥生村
內山城。屋野右衛門大夫所
城也。其時城下所落居之後。近于中道。今吉田所是也。益永村
館右同人所城也。とあり。さて伊賀守也。中卷。又伊賀守と
筑後志四卷。菅沼治部太輔家長。竹野郡菅沼村。乃
人。姓氏未詳。笠間日向守。竹野郡益永村の人。未詳。とあり。
又。次。郡の大掾ハ。知名抄九卷。竹野郡柴刈。二田。竹野長
栖。船越。川會。已上六
御あり。筑後地鑑中卷。竹野郡八拾三ヶ村。地
鑑。竹野郡八十三ヶ村。冠村。村島。赤部。石垣。龜王。藏八。菅村。
松門寺。徳重。吉田。小川。上古賀。末次。今泉。千代久。下古賀。吉本。

樋口、陣内、中徳、立野、灰塚、志床、馬渡、高本、田主、丸町、小田、吉田、町、明石田、藏成、松原、須和、力常、口高、蛭川、怒田、龜山、三本木、朝、返、男利、麥生、徳満、五郎丸、上、茨山、下、茨山、富本、三明寺、瀬井、野、中、中原、増永、大慶寺、竹野、隈村、今村、五名、猪口、浮地、門上、綾野、西牧、原村、江口、松崎、吉富、高島、小物成、指出、自在、丸、塩足、筒井、六、鹿、鳥飼、高食、床島、大久保、竹松、西間田、東間田、平村、唐島、山、口、高、壹、万、貳、千、三、百、九、拾、七、石、筑後志、竹野、郡、九、十、一、村、壹、万、二、千、三、百、石、餘、を、有、り、さ、て、地、圖、を、按、ず、る、に、竹野、郡、東、生、葉、郡、北、筑前、國、夜、須、下、座、二、郡、本、國、御、原、郡、等、南、上、妻、下、妻、二、郡、西、山、本、郡、に、隣、り、て、山、多、く、平、地、少、し、廣、狭、里、數、等、い、ま、い、

考へ、茨春木云。天智天皇紀十年十一月、伴又。筑紫君薩野馬韓島勝、倭々布師、首磐四人、從唐來云云とある。韓島ハ竹野郡唐島村を云ふありぬり。筑紫君なるも由ありと云ふべきなり。此説の如く、布師の首と云ハ、屋野子由ありけし、聞ゆ、なり、考、小、べ、し、又、倭、各、抄、に、豊、前、國、宇、佐、郡、辛、島、郷、あり、て、扶、桑、託、爾、宇、佐、宮、祿、直、辛、島、勝、波、豆、米、と、り、小、と、見、え、あり、重、て、考、あり、に、布、師、ハ、ホ、シ、と、ハ、訓、ぬ、る、べ、し、倭、名、抄、に、土、佐、國、安、藝、郡、布、師、布、乃、之、と、あり、さ、れ、は、と、も、布、乃、之、と、云、ふ、と、も、又、心、得、け、り、と、訓、注、な、り。

○高木神

三代實録三十四卷、元慶二年十一月十三日、授筑後國高、榊、神、從、五、位、上、と、あり、高、榊、ハ、多、加、伎、と、訓、べ、し、御、名、義、ハ、地、名、に、依、て、負、せ、る、べ、し、さ、て、筑、後、志、二、卷、に、竹、野、高、木、村、に、天、神、小、祠、有、て、里、民、天、滿、宮、と、崇、む、疑、ら、く、ハ、是、其、高、木、の、神、

の實跡なりとむとあり。高木神社と申すを。やがて天神社
 と誤りしなるべしとあり。筑後志二卷より。或人云。高良
 山。疑らく。高野の神なりと云り。天正初。高木ハ地。名。りし
 負長ガ家族。高木六郎と云り。さて高木ハ地。名。りし
 先。證。ハ見及。バ。高。山。な。と。依。て。負。せ。る。山。を。キ。と。云。事。造。な
 警。和。奈。破。臺。下。古。事。記。高。津。宮。件。ハ。ミ。モ。ロ。ノ。カ。ソ。ノ。カ。キ
 知。御。之。能。跡。野。す。欽。明。天。皇。紀。奇。ハ。柯。羅。俱。爾。能。基。能。陪。作
 陀。致。底。と。あ。る。な。全。く。山。を。キ。と。よ。り。の。と。同。ゆ。城。を。キ。と
 云。ハ。元。よ。り。の。事。ナ。ル。強。て。い。ふ。欽。明。天。皇。紀。の。奇。ハ。城
 の。事。と。も。を。へ。し。其。余。ハ。三。奇。ハ。城。の。事。と。し。て。ハ。む。け。は。同
 し。ヤ。ハ。覺。ゆ。

○守部庄

宇佐大鏡尔。筑後國守部庄小河庄とあり。守部ハ毛利倍と

訓べし。各義いさ。詳な。筑後地鑑中卷尔。竹野郡夷部

村あり。小河庄ハいさ。詳な。筑後志四卷。小川伊豆

友家の幕下なり。子孫民間尔。下。今。猶。當。村。是。在。大。友

家の感状判物且菅神の尊影を傳へて家宝と云。隱徳太平

記十五卷。龍造寺の家臣小川筑後守あり。地鑑を按する

○柴刈御

倭名抄。竹野郡柴刈御あり。柴刈ハ志婆加利と訓べし。各

義ハ山中。柴刈る處なる故也。筑後志。竹野郡

柴刈御今ハ廃れてなりとあり。筑後志三卷。平氏古墳行

平の清盛或ハ直盛の塚なりと云。石信。平。今。梅。村。民

馬又来て此境前を過る者必墜落
すこと今猶然り。

○二田御

倭名抄尔竹野郡二田御あり。二田ハ不多陀と訓へし。筑前
手郎二田布多 名義ハ二田物部住、可し處よて負せしるり。
多ともあり。孝徳天皇紀尔物部二田造。姓氏録ハ二田物部同神、從者二
田天物部之後也ともあり。同神ハ饒速日命を云。又旧事本
紀ハ二田物部見え多し。了て竹野郡二田御今ハ廃きて筑後地鑑ハ
とも見えに。

○竹野御

倭名抄尔竹野郡竹野御あり。古ハ竹野郡家を置きて多る處
なり。筑後地鑑中卷ハ竹野郡竹野村あり。
丹後国ハ竹野郡あり。

竹野神社
あり。

○長栖御

倭名抄ハ竹野郡長栖御あり。
御原郡長栖とあり。筑後志ハ竹野
郡長栖御今ハ廢きてろしとあり。
長栖己下三郎ハ異郡よ
混入り多るよてし有べし。

○船越御

倭名抄ハ竹野郡船越御あり。
同書ハ志摩國英虞 船越ハ不
同書ハ志摩國英虞 船越ハ不
不那古志とよむべし。名義ハ船を引越る處よて負せし
るべし。
古事記至仁天皇卷ハ自山多和引越御船と云事な
りともあり。筑前志摩郡舟越津ありて土地のよよ
か各の越ハ筑後志ハ竹野郡船越御今ハ廢きてろしとあ
る。

○川會御

倭名抄尔。竹野郡川會御あり。同書子仔賀國阿作郡川會出

郡河會。信濃國川會ハ。加波比と訓べし。名義ハ。川の行合處

にて負せしむるべし。越中國碓波郡川會加波安比とあるハ

安文字云ありて開切。波又アのひ

きあれむる少。又甲斐國八代郡川會加波井。巨麻郡川會加

波井多とあるハ。比を井とあり多る物なり。或尔山城

○石垣寺

國愛宕郡鴨川合堅小。さて筑後志子。竹野郡川會御今ハ。麿

社。宅神社多とあり。きてなしとあり。

授手印決答銘心抄子。石垣者別處号也。筑後國在之金光坊

者。是彼寺別當也。本宗天台宗也。訴訟事有て鎌倉下安樂

勸を聞て忽ち発心して。世間訴訟事を捨て。上人弟子と成

とあり。四光大師行狀翼讀四十八卷子。石垣の金光坊ハ上

人稱美の言を思ふ。又岸上の法門。眞に至る事

志少ぬべし。嘉祿三年上人の門弟也。因々遺るなり。時

隆貞國子下向し。遂に彼處にて入滅の間。彼行狀廣く世

聞えよるに依て。季石垣ハ。伊之加支と訓べし。名義ハ。石を

多く集めしる處にて負せあるべし。豊後國速見郡石さて

本堂棟札銘文子。奉造管婆婆示現大導師大光普照觀音大

士大宝殿一序。七間四面。當山者觀音薩埵涌現之勝地。行基

僧正經行之靈場也。奇瑞年旧八百余歲。威風日新矣。末世濁

乱之教主大慈大悲之本誓有之。雖然天正年中兵火燒亡。依

之大英檀主再建成。調供養儀式者也。昔文祿四年乙未八月

十八日。本坊住持比丘勅雲龍和尚大禪師。大英檀菊池九代
末葉。藤原朝臣城十郎太郎久運。雄武剛運。如龍如虎。安世治
國。無有懈怠。護國護法。救人不怠。防怨敵於他方。集祥瑞於此
界。菓實日熟。人民大悅者矣。佛法與隆。伽藍安穩。師弟契約。倍
擅信歸。崇佛日增。輝法輪長轉矣。出田宮內少輔藤原家綱。同
左京大夫家且。同大勝之進芳氏。武運亨通。子孫繁茂。諸士人
民。平等快樂。以上とあり。さて銘心抄頭書云。石垣。筑後國竹
野郡也。彼寺。石垣山觀音寺。元明天皇。勅願所。和銅二年創建
行基。開基也。北筑雜稿云。竹野郡石垣山下有觀音堂。堂側有
池。池中多魚。居人皆云取之必有殃矣。曾有一士人取而食之。

即得疾。見之者皆畏。生葉郡麻生池。真亦然。筑後志三卷云。觀
音寺。竹野郡石垣村にあり。云當山本尊十一面觀音。亦
梅担一才八方。立像。西城。昆首錫戶。造所にして。天皇灵夢
の感に依て。行基に勅して。灵像を携へ。九州に下向し。當國
宇智山。峻嶺に攀登す。此地。妙境灵地なる事を知て。奏問を
經て。足代山。麓にして。荆棘を薙す。石地を開き。七堂伽藍を
造營せり。是即ち勅願に依てなり。然るに宇智山の中央に。
樋の灵木一株あり。行基是を以て十一面觀世音の大像を
頭首に藏りて安置す。即ち石垣山觀音寺の勅号を給はる。
るを見え多し。本堂ハ。東向て立す。四間四面にて。三方は高

欄あり。僧房ハ南向あり。此寺ハ什物種々あり。唐劍長二尺一寸。兩通九條。狹裳。不動画像。己上三つなり。此外ハ經同二あり。其一ハ銘文あり。法華經一部八卷。無量壽經一卷。般若心經一卷。永久四年歲次丙申二月五日。勸進僧巖与。也。あり。又牛息、牛と云物あり。甚奇なる物なり。大上人、牛ハ倍色ハ甚黒し。寺産五十石あり。荒後志四卷。僧金光ハ本州産。竹野郡石垣山觀音寺。別當なり。初台学の云微を究め。聊愁訴を有て。相州鎌倉。又寓居する事月をこゆ。于時淨土宗の沙門法然。徒安樂。鎌倉。又未多りて念佛を化導せ。金光忽ら同悟。訴説事を捨て。京都吉水の叢林に入て。法然を師とし。遂浪岡村。又於て西光寺を草創し。遂ハ彼地。又終焉。序云。荒後地。鑑中卷。竹野郡石垣村山中。古城。再納山内也。星野重安所築。云云。石垣村新田城。在耳納山之中。新田四郎所築也。荒後志三卷。新田城跡。石垣村。山中。第一城。東西九五間。

南北十間。旁二城。方十三間。の山城なり。同卷。竹野郡益永村。高九城。云云。星野右卫門大夫が築。所なり。第一城。東西十五間。南十九間。旁二城。東西十四間。南北十七間。なり。あり。其初ハ當寺の中。真然。廓和尚と云あり。唐土徑山寺。火災あり。事を知て。奇術を以て。是を救ふ。其報礼として。徑山寺より。劍を送る。其後。足代山。又牛息と云物出て。人と害せ。然廓彼劍を以て。牛息を伐る。其手今ハ残存し。其外當寺ハ什物。太刀。小刀。行基の拂子。又然廓の袈裟。云あり。又ハ。二尺。一寸許あり。鬼手ハ切て。手眼の處より。ゆびまで。残存す。四本。指一本ハ切多り。凡て指。本より。いと。堅く。不し。か。め。多。る。物。又。色ハ。甚。黒。し。凡。ハ。馬。蹄。の。や。う。な。て。相。應。より。ハ。長。し。指。の。毛。も。ど。生。り。し。物。の。や。う。な。也。見。之。を。誠。子。め。づ。し。き。も。の。なり。さて。三。瀨。郡。荒。木。氏。傳。來。文。書。也。肥。後。荒。後。凶。從。御。退。治。事。御。發。向。之。間。荒。木。弥。六。自。最。前。令。參。候。迄。于。肥。前。國。倉。上。筑。後。固。白。氣。隈。善。導。寺。牧。村。石。垣。荒。木。瀬。戸。島。瀬。高。庄。御。座。被。每。夜。宿。直。警。固。於。去。年。十。月。十。一。日。石。垣。

寺野伏合戦以下相忠勤侯畢而預御覆勘致備龜鏡候。以此旨可有御披露候。恐惶謹言。貞和五年六月日。進上御奉行所。藤原家有上とあり。

○山本郡

延喜式に筑後國山本郡あり。和名抄に筑後國山本也。万毛止りあり。各義ハ大山を有する故なるべし。倭名抄に肥後國山本郡山本
多志にあり。表氏云。山本郡ハ耳納山麓にあり。其を有する心し云云と有り。此説さ七あるべし。耳納山ハ太平記に水繩山とあり。或は代山とも云。俗にを藁尾山とも云。尻凡山とも云。國中の大山なり。生葉山より西高良山に至るまで六七里間あり。さて草野系図に賴朝公之時。於筑後賜山本御井御原之内三千町云云。應永戰覽記下卷豊前國伊田川合戦件に三番山下監物云云。筑後地鑑上卷に山本郡吉木

村竹之城。耳納山之内也。東面山城東西四十間。南北五十間。草野氏代々城也。天正五年丁丑大友義鎮日川陣敗北而後。豊筑肥分裂而列國爭勇。邦國擾亂之時。此城要害淺陋。故謀不能有城。新築于癸心嶽。待四方之敵。戰鬪者久。癸心城。屢小山
村東西百三十間。南北百間。筑後志三卷に第一城。縦三十五間。横十二間。第二城。縦三十間。横十三間。耳納山之内也。南上專郡北川内山。北山本郡小山田境之山城也。此時大友島津龍造寺成。魏吳蜀之戰。就中本州紛乱而鳥鵲失樹。爰草野右卫門督鎮永。從來大友幕下而天正十三年。叛大友。歸于龍造寺。嫡男藩子代。凡為隆信。為質子。因茲大友終憤。遣數万軍勢。攻草野城。秋月長門守高良山良

寬勅力屢雖攻祭心城。城堅而難容易潰。互攻守及三年。古本九州

軍記九卷。天正十二年十月。大友勢草野長門守鎮永其子。回書助親永。分邑城を攻落す。是に依て草野父子邑城を捨

て。祭心嶽の城に引籠りしを記せり。筑後志三卷。天正。年中秀吉公鋒須賀阿波守に命じて。鎮永を賜殺し。忽敗滅

す。及。爰同十五年三月。秀吉公九州發向之時。鎮永以為身當

國諸將合志。防大岡九州諸將共一味而討大岡。不可運踵。於

是秀吉公欲渡筑後川時於祭心嶽。舉旗。秀吉公於吉見嶽一

宿既而箸坐于山門郡北関。此時從吉見嶽命蜂須賀阿波守

顯寄鎮永於北関。秀吉公既越肥後南関。鎮永見謀。蜂須賀士

臣至北関。阿波守宿所。阿波守出入於門外曰。為秀吉公上意

有密談之儀。若于郎從不可得入。咸留門外。唯中野彈次西泉

讚岐兩人許令供奉入于廳。既對面。尔處伏兵從尾風張。突出

而如電光。貫鎮永首。彈次立拵刀如石火。阿波守士卒六人

足下斬却而已。討死矣。讚岐忽隱去。草野郎從門外太刀音一

同排圍踏破扉。亂入於庭中。鬪戰移時。阿波守立。國成下知處。

讚岐從裏口飛來。阿波守肩先至。腹下一刀斬。却過鬪場不知

所之。草野郎從戰死者幾二百人。後又祭心城士卒聞之自殺

者數十人。云云。在肥前質于播磨代。九此時及十二三歲。隆信

戰死之後。仕鍋島信州大守。賜領知草野太郎兵衛。尤善草書

なり。あゆ。次子郡大様。倭名抄子。山本郡土師。蒲田古見。三

重。芝澤。已上五筑後地鑑中卷。山本郡三拾三箇村。地鑑。山本郡

三十三村。放光寺、宮園、西泉、中泉、東泉、山本、柳坂、千光寺、下野、津遊、古賀、高島、浅井、木塚、京原、善導寺、庄村、与田、飯田、夫婦木、今山、小山田、草野、吉木、紅桃、林、矢作、龍泉寺、蛇川、常持、石南、指出、飯田、田島、とあり。飯田、田島、ハ後二分多る。村多しと云。志子三十一村。山口、高壹万貳千八百七拾石。筑後志子山本

郡三十村。壹万二千八百石余分あり。さて地図を按る。

山本即東竹野郡南上妻郡西御井郡北御井川を堰として。

御井郡子隣りて。郡中子田地多くして。南方子箕尾山あり。

土地狭小なり。事國中茅一なり。 元後志五卷子。祭心岳ハ山本郡子あり。箕尾山ハ連峯

なり。山状嶋峻蒼苔滑潤山頂子。祭心権現、祠あり。櫻花、松間

子交接して。天と鎖し。千村万落ハ眺望、筑川、幸ハ如く。綾江

山下。又道路有て。往未絡譯あり。其往勝悉く。奉る。よいと。は

あり。同書三卷子。旧月寺、古山、山本即小山田村子あり。祭

心山慈心院と号す。草野氏累代ハ産神子して。魚野三所。権

現を勧請せり。小早川秀包嘗て座主大僧正。大采坊一白を

殺害して。庵寺と号す。又山本郡子田村上品寺。建暦元年。聖

光上人ハ同基りして。善導寺ハ未院なりとあり。

○土師御

倭名抄子。山本郡土師御あり。土師ハ。波自と訓べし。筑前國

土師ハ。波之。名義ハ。土師連等分住る處にて。負せらるべし。土

師ハ。波之。名義ハ。土師連等分住る處にて。負せらるべし。土

師ハ。波之。名義ハ。土師連等分住る處にて。負せらるべし。土

師ハ。波之。名義ハ。土師連等分住る處にて。負せらるべし。土

師ハ。波之。名義ハ。土師連等分住る處にて。負せらるべし。土

師ハ。波之。名義ハ。土師連等分住る處にて。負せらるべし。土

師ハ。波之。名義ハ。土師連等分住る處にて。負せらるべし。土

万太、上壽郡蒲原村三瀨、さて東鑑四巻、元暦二年二月一日、

日、参州渡豊後國、北奈小四郎下河庄司、波谷庄司、岳河三郎

等、令先登而、今日於葺屋浦、太宰少貳種直、子息賀摩田兵衛

尉等、引随兵相逢之、批戦、行平重國等、懸回射之、彼輩雖攻戦

為重國被射、畢、行平誅美氣三郎、敦種、云云、五月五日、可奉尋

寶、叙之由、以雜色為飛脚、下知参州、元至于冬、比任九州諸事

可被沙汰、鎮者、且以其次、波谷庄司重國、今度豊後合戦、討加

摩田兵衛、神妙之由、被感仰遣、也、あり、肥前風土記、又も、神崎

なるハ、この蒲田、今、五月五日、此、文子、息賀摩、と、あり、

下、下、印本、四、字、と、あり、今、五月五日、此、文子、息賀摩、と、あり、

字、を、補、つ、り、序、み、り、小葺屋浦、と、あり、を、も、日本史、を、初、と、し、

て、其、外、の、書、に、も、ろ、も、葺屋浦、と、く、け、る、ハ、誤、り、了、葺屋、の、事、

木、の、か、思、い、よ、き、る、と、い、ふ、山、本、郡、に、て、蒲、田、と、云、地、名、今、ハ、聞、

え、に、

○古見御

倭名抄、山本郡古見御あり、百木云、山本郡、古見、ハ、古賀を

誤るなりべし、山本郡古賀村ありと云、地鑑中巻、山本

下古賀村、上妻郡前古賀村、古賀村、三瀨郡北古賀村、御井郡

古賀村、鬼古賀村、下古賀村、岩古賀村、など見、え、あり、

○三重御

和名抄、山本郡三重御あり、三重ハ、美敵と訓、べし、名義ハ

三重姓の住、り、處、に、て、負、せ、る、べし、肥後國山本郡三重

の元、ハ、伊勢國三重郡、さて筑後志、山本郡三重御今ハ、鹿

手てなすしとあり。

○芝澤御

倭名抄云山本郡芝澤御在。芝澤ハ志佐波と訓云。播磨國宍粟志佐波あり。筑後志尔山本郡芝澤御今ハ廢きてなすしとあり。

○草野庄

東鑑六卷云文治二年筑後國住人草野大夫永平云云とあり。草野ハ久佐乃之訓也。名義ハ廣き野原なり。有て負せありべし。倭名抄六卷云上總國山辺郡草野と云もあり。考ふさて東鑑四十卷云建長二年三月一日造閑院殿雜掌 事録其日云云東棟門丸兵衛陣草野大夫跡。弘安旧記云草野

次郎密乘二艘向志賀島斬賊二十一入太平記三十 三卷云延文三年筑後大原合戦件云草野筑後守。筑後

地鑑中卷云尋草野系圖里老曰其先奥州栗屋川城主安倍

宗任配流肥前松浦御其末葉頼朝公於筑後賜山本御丹御

原之内三千町城于草野庄吉本村故草野太郎永平永平二

十五代後胤号長門守照負照負子右卫門督鎮平鎮平子藩

千代丸也永平之兄同時賜松浦御世々令領知苗裔今之松

浦黨是也分見之なり。平上本朝高僧傳三卷云上人

師云云本朝年代記云一向上人講龍聖後改倭聖筑後草野庄西吉田生名松童丸筑後志危子専念寺ハ山本郡草野町あり西向山と号云四糸帝の御代天福元年聖光上人の旁子持願上人の同基なり持願ハ上御門帝の忠臣源義兼分男なり持願の法統六世日して断絶也中世草野太郎家清郡主ありし時善導寺の僧清岩再興せり云云なりとあり。

○田島庄

東鑑十八卷尔。元久二年五月廿四日。安樂寺領筑後國岩田
田島西庄事云云とあり。全文ハ此卷、七三丁御原
郡岩田庄、件子別出多し。田島ハ、多
之万少訓べし。名義いふ多詳な_レ記。島ノ如く、_レる土地、_レ
辛化、島、山城國、本島、但豆國三島、下野、國室、八島、_レ其外例
多し、又、式、肥前國松浦郡田島坐神社、傳名抄、日向國
那珂郡田島、筑後地鑑中卷尔。山本郡田島村あり。

○善導寺

聖光上人傳云。粵善導寺筑後國。閑山聖光上人。諱辨長。順衆堅
者。孫息筑前國香月庄人也。云云。山本御建一加藍号善導寺。
後、顯光堂塔雙覺。僧徒成林。長日勤行。恒例大會。絶日不懈。遂
明寺。

年思地。地主要阿奇進敷地。置四九本房。彼妻作阿施。入水田。

擬衆僧粮。夫婦同心。銘奇進。文於洪鐘腹焉。傳
上人。要阿施後

川之刺史也。云云。要公施城地。善弁師。康三十六之大殿。堂塔

石庄。應とあり。要公ハ草野氏の事と聞ゆ。鎮西禪師繪詞傳

十八卷尔。要阿弥陀佛俗姓ハ草野氏。筑後守長種として、_レ子

り。當國ハ在國司押領使の二職を兼多し。父永平と共ニ

禪師ニ歸依して。善導寺建立の深志をつく_レり。とあり。又彦

山の住侶祐阿善導寺ニ行て。鎮西禪寺の弟子と_レり。此る由

見之あり。後ニ筑後志の云云。豊後國日田地頭所弥綿阿之

子息。十四歳。九九日未時。登山遠見當筑後國善導寺上。瑞雲

遙聳其色五彩。傍從皆見。小冠還家向。或僧寂語云。并五色雲。

上人往生之雲歟。又告父禪門。綿阿驚馳。參寺瑞相。与入滅時

尅全同。流淚隨喜有僧。壹阿見瑞雲而參寺云云。傳、後子書子
實教。文子專修念

佛師辨阿聖靈基正助行不退遂往生極樂嘉禎四年二月二十九日御入滅筑後之善導寺聖光上人石塔之地輪正
面如地被切付候年月日付者後方在塔多宝塔也とあり傳弘安七年又切付るとあり傳後又書り弘安十年なり
授手印徹心抄云善導寺者正号光明寺本尊而世人常云善導寺寺有善導堂本尊故也決吞疑問抄云又被御云辨阿上人自善導堂叙迦像放光照辨阿給也延應元年二月九八日御臨終之前日也別傳同之回光大師行狀記卷子鎮西聖光房辨長又号辨阿筑前國加月庄入なり云云筑後國山本郡又一寺を建立して善導寺と号に後又も改て光明寺と号く此寺よりして上人相承の法門を任持し念佛往生の解行を弘通する事一生を終るまで片時も廢する事なかり徹心抄ハ辨阿自作なり行狀記ハ

敷山僧辨昌の作なりあり和漢三才圖會八十卷子筑後國善導寺在山本郡草野庄井上一里半号井上山光明院淨土宗鎮西派之本寺寺領五百石本尊三尊弥陀聖光御影堂中尊善導大師凡因光大師右聖光上人開基聖光房名辨長又各辨阿筑前加月庄人也十四歲學天台二十歲登敷山師事寶池房法印證真究二宗秘願九歲歸國補油山寺學頭三十歲建久八年至洛吉水謁源空上人敲淨土樞機而師授以撰擇集元久元年飯旧里與宗門於是建寺善導寺是也嘉禎四年二月九日高声念佛寂壽七人以為善導大師再誕當寺任職著紫衣相傳善導大師現僧形乘唐船之便采筑前博多津建曆二年三月十三日夜告聖光之夢曰汝速

未可迎我翌日馳向于博多尋其處果有善導木像迎之歸寺
淨山本朝高僧傳二卷上人聖光諱辨長云云建曆二年師
感靈告柱博多奉導師之真影安本山建保五年順德帝獻信
賜額於筑後地鑑上卷尔山本郡善導淨土宗鎮西派之一源
善導寺
也法然之後辨阿乃為其第一祖寺僧傳言初山本郡人家稀
踈而盜賊每夜殺人於曠野野中有廢井投屍於其中辨阿悲
之結廬於井上以修念佛是此寺之權輿也今之堂基尚少坳
之以存古意故号井上山又曰宮寺之初善導大師之木像不
求而自宋至辨阿喜而事之今所有即是也号善導寺每歲二
月廿七日八九日有三日法會是岡山聖光上人之御忌也法
事奏絃管交樂僧徒皆習熟之所謂筑紫樂也
筑紫樂の事筑
後志三卷子千

樂越殿樂太平樂白狂樂五常樂青海波等なり寛文の頃當
寺の僧法水と云この筑紫樂を學て妙手の名あり後年東
武に至りて上永檢校城談子傳小上永後子八橋
檢校と改りて始て其術を三弦子移りといふ中洲九國之
門派之緇素未湊而行大念佛逢法會老若群集三夜自成市
燒膏油續燈高賈門前擾々矣前大守田中公寄附寺田五百
石筑後志尔山本郡飯田村終南山善導寺ハ兼元二年聖光
上人の創造なり其比草野大夫永平同葬永徳水田五十
町色此寺に寄附也其後此寺ハ廢まらぬしを元和年中
に至りて國守田中公部太輔吉政此寺に寄附四百石を寄附
せしむる昔の寺領の残さるるの石を合て
爲住持之僧世
寺へて五百石の寺領ハ今も傳り也
例賜紫衣代々紫衣古今稀寺中有一靈堂榜曰實相精舎此
州故大守田中公夫人松平氏乃東照大神君之至親也故宮
此堂奉安大神君之靈塔又奉眞台徳院之靈牌於方丈府君

以毎月十七日、廿四日、拜謁兩尊所。筑後志二卷云、善導寺云、
正月十四日善導大師の祭祀を行、世に善導忌と云、念佛
音楽あり、又正月廿五日法然上人の法會あり、此時も亦念
佛音楽法談あり、境内、円山堂ハ三祖の影を安置し、不断念
仏を修之、中央善導の像を崇之、左右円光聖光の二影
を安之、故尔世人三祖堂と称之、本堂の本尊ハ坐像の弥陀
二尺四寸五分、同脇士二菩薩聖光の自作なり、又鎮守堂あ
り、高良玉垂命、八幡宮、住吉大神を崇祭之、此余薬師堂、辨才
天社あり、田中吉政嘗て實相精舎を造営し、東照神君の靈
を斎き祭まり、又台徳院殿の灵位を茲に安之云云、當寺の

靈宝源頼朝公安置の弥陀釈迦二尊、頼朝公是を法然に授け、法然是を聖光に授け、
善導大師の真像、聖光上人の真影、聖光上人真影、聖光筆法
形像、自讃、法然熊谷直實尔授名号、聖光上人真影、聖光筆法
然形像、同作坐像、弥陀、円満佛舍利、慈覚傳衣袈裟、但布衣九
五條也、慈
覺より、聖光は恵心筆、弥陀画像、中将姫縫、弥陀、以上十三品
至り、十八代也、也、塔頭の殿院、往昔三十六坊あり、中世火有て悉く焼亡し、
今十五坊を存之、所謂、称光院、不断院、觀善院、長松院、智音院、心
光院、青蓮院、清光院、上呂院、清休院、無量院、昌泉院、淨光院、涼
光院、大衆院、是より、子院、筑後州内四十八寺、肥後国五十寺、
肥前国十一寺、筑前国五寺、豊後国二寺、豊前国一寺、伊勢国

一字武藏国一字なりともあり。す、田光大師行状翼賛
尼又善導寺ハ中比又至て任

職其人をかし殿堂火災子逢とり一と也。草創より已未其
地を改め比一宗正流彼源を失ハぐれハ天下相推て一派

の本處より同祖以後良忠敬蓮社道光己下今に至て法義
相續とさいつころ永宣旨を賜りて代々の任職紫衣を

著せると定式とせり。延宝の未又當寺修覆の事は同祖の
影像京洛に入給ひ江府を経て帰坐なりき。時子九重及同

東の一宗の法流を及との施財を擲て報恩せむるハ無已
す。又同書又善導寺の本堂坐像、弥陀二尺四寸五分、同立

像、服士二菩薩を本尊とに。聖光上人の自作といへり。又釈
迦堂ハ五間四面、南方又向ふ。大中二門各南面なり。色過て

五六間許ありして立らる。本尊釈迦の像作者分明なり。坐像
四尺五寸。大門の外は西面の薬師堂一片あり。此堂は對向

せり。一尺五寸むのりの尊像を安せり。按てり古ハ當
堂を呼て善導堂といふ事上の如し。今御影堂を別と立ら

きて善導の像を移さる。釈迦堂の称号より始まる。次
御影堂ハ七間四面あり。大中二門の中間南の傍五六間を

つりて去て杉林の中より立らる。此處は三祖の影を安し。不
断念仏を行ひ須弥壇中央は善導の像を崇め左右田光

聖光の二影を安し。聖光上人別傳云、葉墳墓於院内、彰於寺、
砌とあり。これ此堂ハ管攝ハ同祖入寂の以後と聞えり。

又とあり。其氏云、筑後国善導寺ハ古ハ塔頭の坊舎三十六
院ありて頗大伽藍なりし由なり。今も十五坊残て諸国

又末寺多く。凡国の一本山なり。
云云といひりき。

○浄土寺

高良山天文九年二月神領檢地帳山本即云云一所五段御酒

田勾 菅衆 浄土寺。鎮西禪師繪詞傳十八卷。敬蓮社入西又入阿

と号せ云云。筑後國司永平の弟。飯田六郎永信。法号寂西宝
治三年三月

二十日終。妻女法名範阿弥。夫
寛喜四年十一月十三日終。夫妻歸依せしむ。當國山本

即正覺山浄土寺を立て居住せしむ。弘安八年西十月二十
日往生せしむとあり。

○千光寺

洪鐘銘文云。大日本國筑後州白銀山千光寺。公用南無佛跡
耶。南無達磨耶。南無僧伽耶。唵三滿跢薩縛。坦羅娑婆訶。夫以
娑婆世界。南瞻部洲。伶俐聰明。耳根得脫。故我本師。大覺世尊。
於中印度。王舍城中。扣洪鐘聲。轉大法輪。聞者悉皆。淨六指根。
具六神通。爰重道人。發勇猛願。成就大功。造此華鯨。願聽吼音。
遠近群生。未得天耳。千二百年。功德速成。到著彼岸。專願仙日。
遍照九天。慈風竟風。同扇萬國。國泰民安。天下獲得。豐成之樂。
山門法衆。進道無魔。十方且那。福壽增長。四恩終報。三有齋資。
法界有情。同圓種智。頭角峰崒。氣突天玲。瓏八面鮓。元全芳閑。

撞着清宵。外哮破無。明曠劫眠。永和三祀。丁祀十二月日。住山
密岩老衲。齋書大勸。進比丘智重。大工藤原資國。とあり。寄附
狀云。就今度山本郡相宛。為御寺領六町進也。候。坪付之旨。別
紙□□猶桂民部大輔。可申達。候。恐惶謹言。八月五日。千光寺
衣鉢閣下。秀包花押判とあり。筑後志三卷云。千光寺。八山本郡草
野打子あり。筑地。古名平礼石と云。古書に姓々見えあり。建久三年。草野大夫永平。
千光國師。采西を請して。同山とし。七堂伽藍を造立し。且塔
中。子院七宇を建て。白銀山千光院と号し。寺田十二町を寄
附也。其後數回の炎焦。又依て。後小松院勅有て。龍護山千光
寺と改号し。勅額を賜ふ。延文三年。草野次郎永種。將軍尊氏

公の靈塔を境内に建立し、同年後醍醐天皇、皇子征西將軍、
宮當寺に於て薨御あり、殯葬の旧迹今日存して御席あり、
千光寺境内にあり、征西將軍の塔ハ、四方に梵宇あり、左右に
小塔ニあり、殉死の塔なりと云、塔前は水鉾あり、四角に
て柱の如くなる石の上をくちめて水を入り、菊、紋を彫、
付あり、其下は故往西將軍廟前とあり、さて此征西將軍懷
良親王の墓と云ふ、實ハ大葬の地にして、應永九年
御骨を葬ふる墓ハ、肥後とありと云ふ、
草野氏鎮永防州龍門寺、僧為契禪師を請じて、滴家と改め、
州内曹洞の僧録として、寺田十五町を寄附せり、天正十四
年、秀吉公九州征伐の時、増田長盛、淺野長政、長束正家、と命
じて、監妨狼藉、制札を寺門、傍に建つ、中世、久苗米侍、秀包、
一字、小堂を建立し、父毛利元就、靈牌を安置して、寺産六十

一石を寄附せ、其後田中筑後守忠政、三十九石を加附し、都
て一百石の寺産今日存せ、
當寺、末院ハ、久苗米、千栄寺、同正
覺寺、御井郡、同勝寺、生葉郡、大田
寺、山本郡、觀光寺、竹野郡、法音寺、上里郡、同通寺、三鰯郡、永勝
寺、同多福寺、同慈音寺、同明王寺、柳川領、報恩寺、是なり、
少あり、さて千光寺は草野永平、時に立し下馬、書附あり、古
風なる物なり、又秀吉公、制札もありしと云を、今ハなし、此
寺兩度の火災にて、寶物多く焼失ありと云、秀包、時寺領
六十一石寄附あり、田中氏、時三十九石加増有て、惣て百石
なり、元和三年御代官松倉豊後守の書附もあり、
秀包の位
牌もあり、
本堂ハ東向にして、惣門ハ北向なり、佛殿、額ハ、
堅額、首傳禪
宗千光瑞院とあり、
曹洞派なり、額ハ、肥後國、
人、東明の書るなり、中門、額ハ、
東向、横額、

龍護山とあり。小松天皇勅額なりと云。寺ハ高良山より吉井、方へ通る道筋よりして、道南傍やつて寺、境内なり。百石寺産ハ即境内ニあり。山林甚度し。寺東山上ニ鎮守社なり。秋葉権現あり。鳥居額子扶正権耶、四字を刻めり。征西將軍宮の御墓ハ本堂西南ニ近くあり。千光寺ハ四寺統と云物四ツあり。大なる朱統又て底ハ
四寺統と云銘あり。是ハ同山千光國師の當寺及京都建仁寺。同法勝寺。筑前博多聖寺。この四ヶ寺ハ百人前づゝ寄附し置き多る統なりケ故ニ。
四寺統といふといひり。

○觀真寺

高良山 天文二十年二月 神領檢地帳ハ山本郡一所一町内五段。柳坂分五段。觀真寺分一所五段之内。觀真寺作とあり。筑後地

鑑上卷ハ觀真寺在山本村。曹洞僧徒守之。其旧記曰。昔在豊後國深山有異木放光。草野太郎伐之。投筑後川。一夜而流而至于此所。處名曰一夜川。其異木之流止處之岸畔之一町名之曰大木。今作大城非也。皆異木流來所得其名。而彫刻此木以造觀音像。建立一宇。安置之。今觀真寺是也。筑後志三卷ハ觀真寺山本郡山本村ニあり。普光山と号シ。曹洞禪刹なり。云云。草野太郎常門豊後國串川上ニ至テ千枝栢橋。壺水を得テ。千手觀音像を彫刻シ。當山を同基シ。伽藍を建立シ。塔頭三十六坊を置き。右大弁大神。種政を勅使として。觀真寺勅額を賜ヒ。寺田五十町を寄附シ。草野大夫永平。画工土佐

將監光信子命じて大慈由來殿堂樓門神祠僧坊悉く画図
ル寫して什物として今猶存也。其餘寺藏の宝物旧記等中
世兵火に羅て亡びあり。五十年前寺後園圃を掘て古碑を
得あり。當寺座主長尊尊銘有て文永年号を彫る云云。境内に
小池を掘て古瓦を得る事あり。皆觀與寺三字あり。殆都府
櫻、瓦爾類也。頗る古物なりとあり。觀與寺に掘出ありと云
塔の事。好古漫録にも見
え多已。其銘文は文永六年己巳年十二月十三日。座主長尊遊
去仍為往生極樂。造立者嚴謹奉建立五重石塔。右念誦者比
丘。所奉字三。礼妙法蓮華經一部八。結二經。金剛般若經。阿彌
陀經。各一卷。奉納此。慈氏一生之暇。空早答。皆成仙道之素懷。
乃至。族法界有情類。速登在庶。預同示入之答。正安元年己亥
十月。願王比丘。とあり。文字詳々なり。是を省く。

○放光寺

高良山 天文九年 神領檢地帳云。山本郡一所云云。放光寺分と
あり。久留承人云。天明四年辰七月六日。山本郡放光寺村、内
國分と云處より掘出し。ある古石塔に銘あり。三塔何も丸
くて中程に梵字あり。其内一は長し。廻り二尺六寸。高九寸。あ
り。其銘は嘉歷三年戊辰七月六日夜僧定季とあり。銘文も
辰年七月
月六日とあり。掘出ありしは辰
年七月六日なり。ハアヤシ。 昔此地に放光寺國分寺とて。
二ヶ寺有しと云。何比に廢せありと云事ハ詳々なり。宮地
の近辺にも國分寺あり。宮地の方なり。ハ今の國分村にあり
る。亂國の時河北に移しあり
物多しと云。傳へ多し。放光寺
村ハ放光寺の西にあり。

○至福寺

寄附状尔。奉寄進至福寺本尊。當寺敷地在家山野等任證文
可有知行同西小野在家等子細同前田地分柏町一町後家一期
御知行上穴壹町。公計五段。津志原壹町。正時四段。八院三段。
久志羅五段。楠本壹町。島町四段。因分寺壹町。在猪口薦町壹町。
津福中津町壹町。因榮寄進地。籠野島地五段。子細同前。津丹
島村屋敷等。同瀬戸口島二段。右田島屋敷等所奉寄進至福
寺本尊也。為寺領魚他可有知行之状如件。正平九年丁未
六月二日。權律師田時歲上包紙子安養寺の住持高良山崎
家。文書尔。奉寄進至福寺筑後國高良御神領内津井上田
地三段屋敷三ヶ所之事。右田地屋敷者筑後守元秀禪門為

菩提至福寺奉寄進所也。仍為後日寄進状如件。應永九年壬午
八月廿七日。則永書判とあり。又高良山天文九年神領檢地帳
尔。山本郡云云至福寺分とあり。國人長田盛忠云。至福寺。跡
ハ山本郡板坂村にあり。聊
小堂より庵主
とあり。

○若宮八幡社

棟札銘文子。若宮八幡大菩薩一宇。文治三丁未敬保武運永
世者草野太郎藤原永平已上一于時文明大甲午歲三月吉
此處板朽文字不知云云。甫真大檀那草野中務太輔藤原朝
臣冬永。倉八紀伊守。已上一奉造立山本郡若宮三所一社右
運精誠之旨有信心大施主大檀那草野中務大輔藤原朝臣

鑑負大願主源氏女大官司式部丞清正官司采田阿闍梨元
 龜二年貳年辛未九月十四日敬白大工城并助左卫門尉藤原
 永次鍛冶樋口左近丞小工十五人己上一枚奉再與若宮拜殿
 一序護國四天王鎮右意趣者大施主為武運長久郡内安全
 子孫繁栄諸願成就之由如件大檀那草野中務大輔藤原朝
 臣鑑負天正五年丁巳十一月十一日敬白大工城并助左卫門
 尉永次小工二人今定あり若宮八幡社ハ山本郡吉木村ニ
 ありて乾方ニ向ヘテ村上山麓聊高き處ニあり祭礼八月
 十一月十五日ニあり神官合原掃部是ニ奉ヒ草野家代々
之の吉木村内南方より山上ニあり其下ニ下屋の跡あり
発心丘ニ移リハ後の事なり故尔吉木村内ニ古町と云

所あり町家ハ今草野の町ニ移セリ今草野町今ハ二百
 軒あり此町ニ祇園社あり合原氏ハ今も草野大官司と
 名乗リ

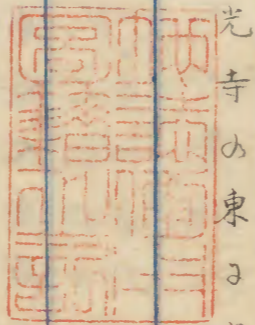
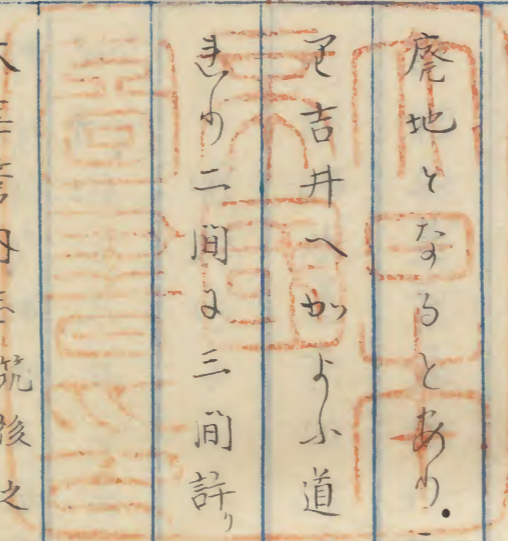
○柳坂山

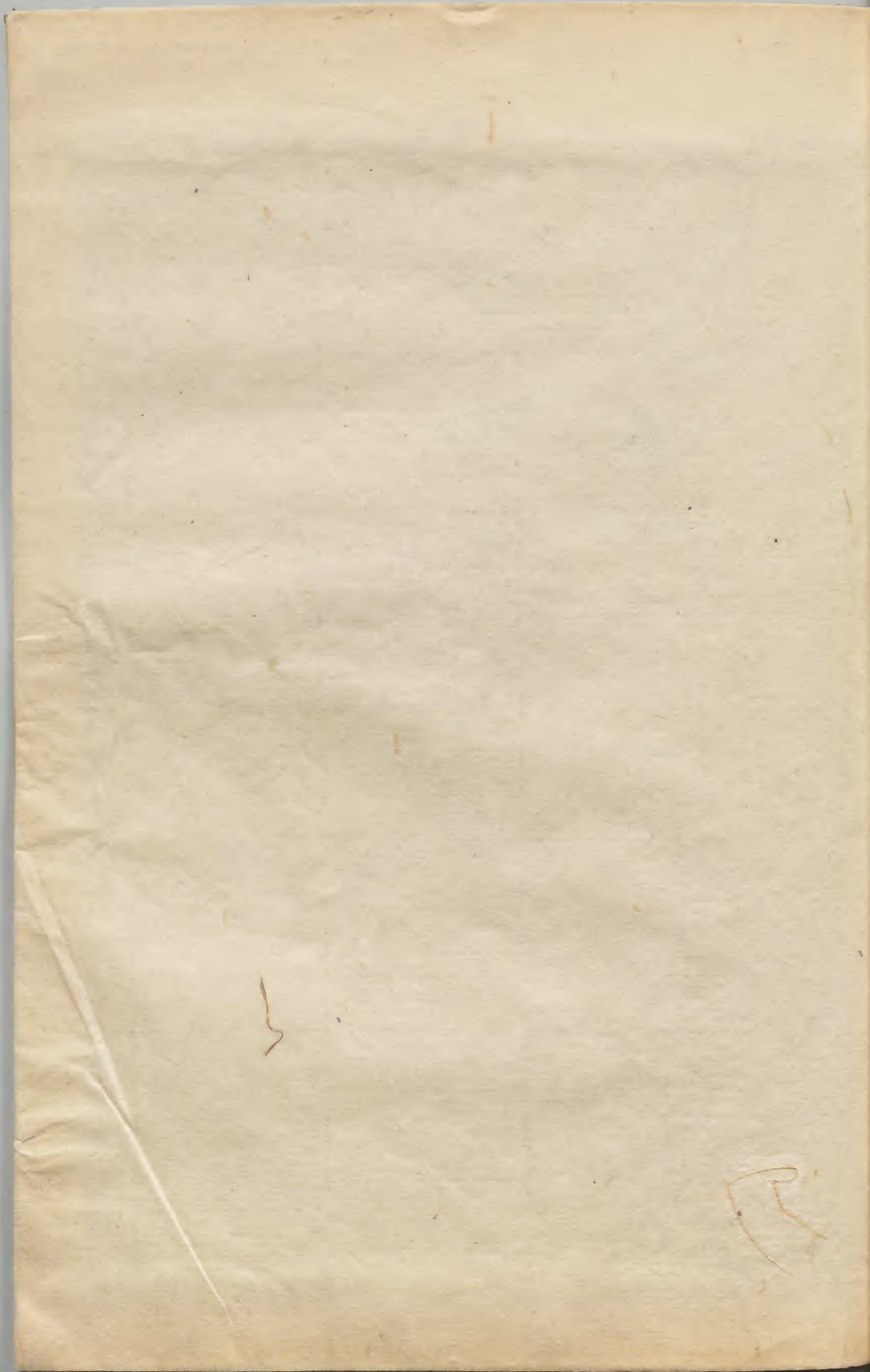
三鰭郡大善寺旧記云云柳坂道性房定祐料田一町荒木
 村柳坂蓮實麦琳料田一町荒木柳坂蓮實房嚴琳料田一町
垣柳坂狂兼房長栄魚料云云右注進如件承久元年九月九
 八日奉定額銀元新供僧米田帳任札馬軍公文判公文判惣
 公文判とあり又高良山神領永禄十三年坪付帳一町二段柳
 坂星祭のりりけ田也同天文九年二月神領檢地帳云山本郡一
 所一町五段柳坂分とあり筑後志三卷ニ永勝寺古野山本

即柳坂村あり。柳坂山と号す。云々薬師佛を安置して國
家安全祈禱を修す。天正十四年星祭あり。三年一度祭星
月あり。年々行ふなり。小早川秀包入國後堂片佛像を放火
し。住僧証明坊を逐ふ。田中兵部太輔吉政受封後。草堂を再
興し。薬師佛を安置せり。毎年十一月十二日祭祀を行ふ。今
廢地となりあり。永勝寺跡ハ柳坂村内にして高良山よ
り吉井へ如く小道あり。五町許南に入所あり。薬師堂残
まり二間三間許の小菴あり。

柳坂山ハ千光寺の東にあり

太宰管内志 筑後之二





Faint, illegible text printed in vertical columns within a rectangular border on the right page. The text is too faded to be transcribed accurately.

